

昭和9年(1934)設立

財務省許可 社團法人 昭和経済会

第59巻1号 20年元旦

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可
(毎月1回1日発行)
平成19年12月26日印刷 平成20年1月1日発行
昭和25年10月19日
日本国有鉄道特別承認証第1797号

昭和経済

Manager Association of Japan

原油マーケットと、世界経済
巨大エネルギー・さらに解明を

佐々木和男
土屋 賢二



昭和経済 20-元旦

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可(毎月1回1日発行)
昭和25年10月19日 日本国鉄道特別承認証第1797号

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

財務省 本省許可

社團法人 昭和経済会

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

<http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail showakeizai@crux.ocn.ne.jp

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以って、文化科学への触発は閃きを以って発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知をもってこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操をもって、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と経済活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

社団法人 昭和経済会

社団 法人 昭和経済会の案内

創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私経済の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の経済、政治、文化、学術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、税務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

統・増頁発刊



新 春 一 月 号 · 曜 次



卷頭言 佐々木誠吾 (2)

わが回想記 堀江 忠男 (36)

[時局論壇]
(巨大ヌエ) さらにに解明を 土屋 賢二 (5)

心豊かに力強く生きる 井浦 康之 (39)

昭経俳壇

原油マーケットと、世界経済の様相 遠藤 蘆穂 (43)

学校経営と、日本の教育は 佐々木和男 (10)

後記隨想 佐々木誠吾 (47)

後記隨想

(感想) 歲森 史人 (21)

表紙絵のことば 関根 常雄 (61)

日本経済を読む (四) 斎藤精一郎 (29)

謹賀広告 (63)

バブル崩壊の前後の

世の中は (質疑応答) (七) : 高木新一郎 (29)

深謝

卷頭言

佐々木誠吾

初め書きに一の字を太く書きこころ思ひを
貫きゆかん

これは以前に、新年を寿ぎ迎える年に臨んで、自分の心構えを短歌に記して詠んだものですが、今でも私にとって好きな一首で忘れることができません。書き初めはお正月に書く習わしがあって、昔は家庭でも家族揃つて書くことがお正月の行事の一つでもありました。

墨をすつて筆にたっぷりと浸み込ませ、勢いにまかせて太く一の字を書いてみると、氣宇壯大な氣概にふれて、元旦早々芽出たい氣分に溢れています。いつも新年を迎える時に、この和歌を思い出しては、その感慨にふけることは幸せな証拠だと感謝しております。希望を抱き計画を描いて、初志貫徹とでも云いましょうか。

掛軸に上より太く書きおろし春を寿ぐ

那智の滝かな

これも書き初めにちなんだ一首です。いろいろな筆を使って心のままに墨字をたしなむことあります。単に懐古趣味におちいるのではなく、慌しい現代生活のなかで、日常的に高尚な趣味至考に身を置いて修養の道に励むことも、生き甲斐の一つと覚えるようになりました。

俳句、短歌は若い時からの私の学芸の一つであります。全くの独学であります。短歌については十余年前に、歌人で早稲田大学名誉教授、植田重雄氏主宰の短歌同人誌「淵」に投稿の招きを受け、現在も続けております。独学独創の域を出ませんが、和歌、俳句の作品は、それぞれ二万件を越すでしょう。植田重雄先生からは「既に歌人の風格大なるものあり」と雅友の交わりを続けておりました。それでは力強く

精神と肉体を強く堅持して世の荒波を

越へてゆく日々

心身の健康を武器に前進す先に希望と
夢を抱きつ

アブダビ投資庁の出動　十一月二十記

世界最大の金融グループの米シティ・グループが、サブプライム問題で巨額の損失を出して資本不足に落ち入る可能性がうわさされていいる深刻な状況にあります。こうした事態に対し、アブダビ首長国政府のアブダビ投資庁が、昨日、七五億ドルを出資し、事実上同行の救済に乗り出しました。産油国の潤沢な資金によつて、世界的な経済、金融の混乱の収束に向う一つの道筋を示して、強烈なインパクトを与えたことは的確であり、幸いであります。見方によれば、アメリカの金融市场に起きた火災と混乱に、産油国が火消し役として鎮静化に出て、混乱の收拾に乗り出したことになります。原油高レベルな世界経済に奔流して、各方面で多大な影響力を及ぼしつつある実態が如実であります

す。グローバルな経済的混乱に対し、冷静的確な判断を下して行動を起したことは、武力なき、戦火なき、正に平和的解決の道筋であります。中東マネーは主として株式を長期に保有することで、洗練された投資家として知られています。シティグループはこれによって資本の増強に繋げて、市場に安心感を与えることができます。一九九一年に、シティの前身であるシティーコープが経営危機に陥った時にも、サウジアラビアの実業家アルワリード・ビンダラール王子から八億ドルの出資をうけた経緯があります。その時も、シティーコープはそれによつて再建することができました。ビンダラール王子は当然のことながら、その後莫大な利益を得たことは確実であります。今回も、このサウジの成功体験の時のように、この出資が成功への引き金となつて、ひいてはこれから金融市場の不安の鎮静化の役立ちと、金融市场の混乱に歯止めとなることが期待されます。既に世

界的な金融恐慌が始まつておき、将来への確たる道筋が、実際に稼動されることは、今や、必須の要件の現下の世界情勢であります。

先般の当会の講演会でも、原油価格の高騰は、世界経済に大きな影響を及ぼしつつあることは当然の事として指摘されたところですが、前、サウジ石油化学の社長、佐々木和男講師(静岡理工科大学理事長)が、百ドルに迫る原油価格の五〇ドル部分は、投資ファンダムが吊り上げた価格であると説明されるように、世界をめぐる各種の強力なファンダムの動きには限りがありません。だからと云つて原油価格がこのまま際限なく上がるとは云えませんが、原油価格が資金投入を促し、更なる価格の上昇と云う循環が作動している状況なので、実際の需給関係に收れんする価格になるとは当面考えにくい状況です。

今の原油価格は投機資金によつて作り上げられた仮想的なものとも云えます。こうしたなか、産油国に累積された資金が、経済の混乱の

収束に緊急避難的に活用されることは意義深く、資金偏重の地ならしの意味もあります。今後もこうした投資ファンダムの資金が膨大化して、更に先進国の金融、株式市場に直接、間接に投入されて流れてくる可能性があり、その行方には目が離せません。

特に政府系ファンダムは長期投資として、先進国の大企業にも乗り込んで、経営権に参画していく傾向にあります。経済のグローバル化が地域から、国家から、地球規模で実質に動き出すことであり、経済の相互連携が、地域間、国家間の政治的対立抗争をなくし、経済格差を解消する手立てとなつていいくことを願つております。今回のアブダビ投資局の英断が成功すれば、世界経済にとって救世主的役割を果たすことになり、その英断に敬意を表します。

消費国の直面する困難な状況に、有効に対処する産油国の政策決定は、アメリカ発、世界的金融恐慌を防ぐ上でまことに適切であります。

「時局論壇」

しは不信感をもちながらも経済学に頼つてゐる。かりにわたしが首相だつたら、経済学者の意見に従つて経済政策を立てるだろう。

不信感を抱くようになった原因としては、これまで為替の動向などに関する経済学者の意見に従つて何度か損をしたことが大きい。もちろんほかにも「学者を信用してはいけない。実際に金を張つて勝負している専門家の意見を聞くべきだ」と言う為替ディーラーのアドバイスに従つて損をしたこともある。「学者やディーラーの言うことより、確実な情報がありまよ」という証券マンを信用して損をしたこともある。もし損をしたのが偶然なら、たまにはもうかることがあつてもよさそなものが、もうかつたためしがない。

わたしは経済学をほとんど知らない。現在の経済学は、素人が理解するには難しすぎる。経済学を知らないながらも、わたしは経済学には不信感を抱いている。矛盾するようだが、わた

以外考えられないと思ってしまう。その予測が外れたときの説明は、さらに説得力に富んでいたため、やはりこの経済学者は正しいと考えてしまう。

しかし実際にはその説明が理解できるわけではない。テレビを見ていると、「円高だから株価が上がった」と説明するかと思えば、「円高だから株価が下がった」と説明するし、円高がどうなるかは「米国の雇用統計次第だ」と言うかと思えば、「雇用統計はすでに織り込み済みだ」と言つたりするから、素人に理解できるはずがない。

信用失わない点 哲学者も同じ

奇妙なのは、専門家の予想が外れても、だれ一人として損害賠償を求めないことである。もし医学の専門家の言う通りにして病気が悪化したり、物理学や工学の専門家が設計したロケ

ットが飛ばなかつたりすれば責任を問われるが、経済学が予測を外して訴訟を起こされた話は聞いたことがない。

予測は経済学の主要な仕事ではないかもしれないが、ふつう、理論の正しさは予測が当たるかどうかによつて決められる。たとえば理論物理学は予測を主な仕事にしているわけではないが、理論に基づく予測が外れれば、その理論は捨てられる。だが経済学では、予測が外れても理論には影響がないように見える。

予測が外れても責任を問わることは、社会的合意にさえなつてゐる。

たとえば政府が経済学者の意見に従つて策定した経済政策が誤りだと判明しても、責任をとるのは政府であつて、経済学者ではない。バブルがはじけたときも、バブルがはじけることを警告しなかつた責任を追及された経済学者はいないし、学者としての信用を落とした人もいない。

最近、サブプライムローンの問題で世界中の株価が下がり、わたしの家計にも被害が及んだが、サブプライムローンが危ないこと警告した専門家がどれほどいただろか。もちろん警告しなくとも責任は問われない（本人が株で損をした程度だらう）。

ノーベル経済学賞受賞者が一人経営参加した米国のヘッジファンドが倒産したときも、ノーベル賞を返上しろとは言われなかつたし、たぶん学者としての信用は失されていないのでなかろうか。（こうしてみると、経済学者が信用を失うには痴漢でも働くしかないのかとさえ思える。）

経済学と同じく、哲学も信用を失うことがない。第一に、哲学は概念を解説する学問だから予測とは関係がない。第二に、信用を失うには信頼されていなくてはならないが、哲学者は最初から信用されていないのだ。

経済学者が責任を問われるのは、たぶん最

初から経済学の予測は確度が低いと思われているからだろう。天気予報が外れたからといって気象庁の責任を問うことがないのと同じく、経済学者を信用して損をしたら、信用した方が悪いと考えられているのだ。

実際、もし経済学者が経済現象を確実に予測できるのなら、学者自身、予測を利用して大もうけしそうなものだが、そういう人を見たことがない。自分の利益に無関心なのかもしれないが、テレビで見るかぎり、さほど無欲そうに見えない。

予測が確実ではない点では天気予報と似ているが、大きい違いもある。明日の天気をめぐつて気象学者の意見が分かれることはまずないが、経済学では多くの場合、同じ現象について予測が分かれ、相反する見解が並立する。この点では競馬の予想に似ている。

経済予測の結果がどう出ても、対立した双方は淘汰されないまま生き残る。この点も競馬の

予想に似ている。ふつうの学問なら、明日、日食になるかどうかをめぐって学者の意見が分かることはあるえないし、たとえ分かれたとしても事実と一致しなかつた学者は淘汰される。だが、経済学の場合はどれだけ予測が外れても、淘汰されることはまずない。

経済予測が難しいのは、経済現象が複雑すぎるからだ。絏済現象に影響を及ぼす要因は無数にあり、すべてを考慮することができないのだ。

天気予報が難しいのは、考慮すべき要因が多すぎるとかだが、絏済現象は気象現象とは比較にならないほど複雑だ。

絏済現象に影響を及ぼす要因は、素人考案でも、選挙結果、異常気象、灾害、感染症の流行、主要国の政変、国際紛争、テロ、有力政治家の死、画期的発明、証券取引所のコンピューターの異常、害虫の異常発生、阪神の優勝など、数え切れない。これらをすべて考慮することは不可能である。正確な予想ができるはずがない。

おそらく経済学者は予測を求められたら、こう答えるのではなかろうか。「天変地異も政変も国際紛争も起こらず、有力な投資家やブランドが予想通りの行動をし、石油価格が安定し、冷夏にならず、わたしが計算間違いをしておらず、かつ、この予想が外れなければ、六割の確率で円高に推移するかもしれない」

妻の消費ですら行動予測できず

天気予報との違いは複雑さの程度だけではない。気象の場合は、データを網羅して高速処理すれば予測の精度は上がるが、絏済予測の場合は、かりにすべての要因を計算に入れることができたとしても、絏済予測の精度が決定的に上がる事はないと思ふ。

それは絏済現象に人間が関与しているからだ。絏済現象に影響を与えるものは、戦争やテロのように人間の決断に起因するものがある。

ほかにも、ヘッジファンドの活動が法律で規制されるかもしれない。独裁的な政治家が米国の大統領に選ばれ、突然、絏済鎖国を宣言するかもしれない。また、かつてヘッジファンドがロシアから金を引き揚げてロシアのルーブル危機を招いたときのように、大口投資家がそろつて投資先を変えたり、突然、マネーレームにむなしさを感じて出家したりするかもしれない。

人間の下す決断というものは本質的に気まぐれで予測不可能だ。十円を惜しむ人が、状況が変わらないのに百万円の時計を買ったりする。長年連れ添つた妻の消費行動を予測できる夫はいない。そういう人が世界の経済を予測しろと言われるのだ。つくづく絏済学者でなくてよかつたと思う。

絏済学にかぎらず、人間の気まぐれな行動を考えしなくてはいけない学問は厳密さをもちえないよう思われる。これは本質的で克服不可能な困難だとわたしは思う。

それでも絏済学は巨大なヌエのような絏済現象を相手にするときの唯一の武器だ。絏済学のおかげで、偶然にまかせることなく、理性的人間らしく理論的に納得した上で売り買いを決定できるし、その結果、損をすることもできるのだ（もうけることができるかどうかは不明である）。

だからわたしは絏済学者のことばに今日も耳を傾けるのである。

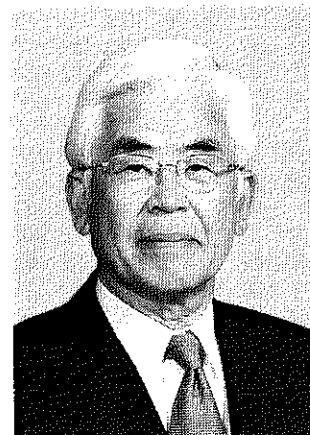
平成十九年九月六日　日本経済新聞に発表

原油マーケットと、世界経済の様相

学校経営と、日本の将来は

学校法人静岡理工科大学理事長
元・三菱商事㈱ 本部長
サウディ石油化学㈱ 前・社長

佐々木 和男



理事長：年末を控えご多忙のことろ本席の講演親睦会に遠近よりお越し下さりありがとうございました。振返って見て、今年はいろいろなサプライズな出来事が沢山ありました。それぞれに思い出として心に刻まれていて思いますが、それが又、次の飛躍へのステップとなり、大きな果実となつてもたらされることを祈つて止みません。本日のお話の内容は「原油マーケットと世界経済の様相、学校経営と、日本の教育の将来は」であります。今年のテーマは、これからお話しして頂く講師の内容にも集約されてくると思いますが、現場を踏まえての実戦活動の鋭い透視力を以つて、勉強できる機会となるはずであります。

いろいろな出来事がありました。グローバルな規模で、国際的に、世界的な広がりがあつて、スピードが加わったものであります。問題山積の課題を突きつけられた感じが致します。そこで今回の講演親睦会には、講師に佐々木和男氏

を招きました、お手元にご案内申し上げましたように、二つの点について縷々説明と解説をしてもらひながら、将来の展望をみきわめて頂けたら幸いかと存じます。当会の主任研究員である司会者の杉田君にバトンタッチして、なごやかな会の進行をお願いします。澆潤とした青年であり、学究者で将来を嘱望されています。当意即妙に皆さんのご協力をお願い致します。

杉田主任研究員： 本日の司会進行を勤めさせて頂きます昭和経済会の主任研究員の杉田と申します。よろしくお願ひ致します。本日お招き申し上げ、ご指導を賜ります佐々木和男先生よろしくお願ひ申し上げます。原油マーケットと世界経済の様相、そして学校経営と日本の将来と題しましてお願い申し上げております。簡単ですが、佐々木先生のご紹介をさせて頂きます。

佐々木先生は東大法科の卒業後、三菱商事株式会社に入社、本部長を歴任されたのち、サ

ウディ石油化学株式会社の社長にご就任されました。サウディ石油化学株式会社では日本とサウディの合弁会社として巨大プロジェクトの推進を果敢に進められ、世界的石油戦略のかで多大な功績を残され、同時に国際交流の推進に多大な足績をしるされました。サウディ石油化学株式会社を四年前に退任された後、再び三菱商事から代表就任の強い誘いがありましたが、固辞されて、これからを大切な教育問題にたづさわれると云うことで、静岡理工科大学の理事長に就任されました。現在は五七〇〇人余りの学生を抱える学園の拡大路線の発展に寄与しております。本日は国際的な実戦派としての活躍と共に教育現場の最前線で活躍されているご経験を踏まえて広く見識深いお話をして頂きます。よろしくお願ひ致します。

佐々木和男： 只今、ご紹介いただきました佐々木和男です。日頃は昭和経済会の皆様方、様々なフィールドで奮闘されていることを伺

つております。

さて、現在日本そのものが政治、経済活動で大変な混迷の最中にあって、皆様方もそれぞれ、お悩みをお持ちであろうと推察いたします。私は三菱商事を終えた後、と申すより、途中で日本プロジェクト、所謂ナショナル・プロジェクトでサウジアラビアに生産基地を持つサウディ石油化学の方に出向し、経営の任に当たりました。

当時は、前にお話したかも知れませんが、原油の価格が一バーレル当り、一二とか一三ドルだったのですね。その後一〇ドル位まで落ち込んだ時でありました。その意味では日本全体が

油というものは市場でいくらでも調達できるんだ、そんなに高いものではないと云う印象を持っていたと思います。

日本のサウディアラビアに対する視線が非常に低くなっていた時でした。サウディと日本が、ジョイントでプラントを建て、いろいろな

石油化学製品を生産・販売し、サウディの国際収支改善に貢献しているにも拘らず、両国関係がしつくりいかない、何とか修復して欲しいということで、サウディのことを何も知らずに、サウディ石油化学の経営に携ったという経緯がございました。後程、サウディアラビアについてはお話をさせて頂きます。

その後、裁判所の方の仕事を四年ほどやりました。故あって、学校法人・静岡理工科大学の理事長に就任したのが今年の一月末でござります。従つて未だ一年経つておりませんが、学校問題についても後程お話をさせていただきま

す。

ところで今日の第一の話は原油問題です。今後、原油価格はどこまで上がってしまうのか、どんな展開が考えられるのかであります。ご存知のように、最近は一バーレル一〇〇ドルという価格にまで上昇しております。なぜ、これほどまでに高くなつたのか、それがどんなインペ

クトになり、これからどういう方向に動くと思われるのか、日本はどうなつてしまふのだろうか、皆様方の生活に如何なる影響ができるのかなどを話してみたいと思います。ところで、私は原油の専門家ではありません。最近まで中東調査会の評議員をやつておりましたので、サウジ担当ということで、サウディのこととなると時折、エネ庁、経産省、外務省あたりより意見を聽かれたりしておりました。今日は、私個人としての意見と考え方を申し上げたいと思います。

先ほどお話をしたように、ここに来て一バーレル一〇〇ドルなどという法外な価格になつたりしていますが、これまで日本全体では比較的冷静に受け止めていたよう思います。それは日本の経済は六一七〇ドル位のレベルであれば十分に吸収出来る位に成熟しているからであります。しかし、これが九〇ドル、一〇〇ドルとなりますと、これはちょっと想定外のレ

ベルになつてきました。そこで、このところ各

産業界では、原油価格高止まりを想定して、価格転嫁に奔走し始めました。これからは、この動きが物凄くボディ・ブローになつて皆さん

の実生活を圧迫していくだろうと思います。で

は、何故そんな価格体系になつているのかとい

うところからお話をいたします。

今から七一八年前にサウディのトップの人たちと話をみると彼らの原油採掘コストというのは、二ドル六〇セントだというのです。諸々の間接費を入れて一〇ドル位が、限界コストで、一四ドルとなればバランスの取れるレベルと主張していたのです。現にサウディではこの時期一四ドル位ほどで、国家財政予算を組みたいという願望を表明しておりました。

それなのに、どうして原油価格がこんなに急激に高騰してしまつたのだろうかという問題です。第一義的には、矢張りブッシュさんがいけないので此の如きですね。クエートにイラクが侵攻した

ために、クエートの石油資源そのものが甚大な被害を蒙った。その時、一時的に原油の価格が三〇ドル近くまで上がりました。これで、周辺産油国は収支が非常に良くなりました。その後、**シユ**はサダム・フセインを叩こうということで、国連を動かしてイラクに侵攻、イラクの石油生産は決定的ダメージを受けました。原油価格は一気に四〇ドルを超えるようになりました。

この現象で、他の中東諸国、それからロシア、中南米ではヴェネツエラ、アフリカ地域ではナイジリア、リビアなどが原油は普遍的な経済武器になるという認識を持つようになりました。原油のバルブを少し絞れば、すぐに世界中が反応して、原油価格が跳ね上がるという事態となつたわけです。数年前までのバスケット方式などは、雲散霧消して、市場の姿に任せることになりました。結果として、中東諸国

などは非常にお金が潤つきました。問題は、お金持ちとなつた中東諸国では、そのお金を自國産業勃興に意外と投資していないのです。余剰資金を一番手っ取り早い金融市場に出して利潤を追求する方向にシフトしてきました。そこにはヘッジ・ファンドが絡んで投機的に利の上がる方向にお金を回すようになつたのです。

ところで、新聞紙上に良くWTI指標という文字を見ると思います。WTIというのは、ウエスト・テキサス・インターメディエイトといいますが、テキサス州で生産される原油の価格指標なのです。世界の原油マーケットでは、NYメソクス即ち、ニューヨーク・マーカンタイル・エックスチエンジと、ロンドン取引所、そして日本の商品取引所の三箇所が大部分を動かしているのです。それではWTI原油とは、どういうものかというと、品質的には硫黄分が非常に少ないため、他の原油とブレンドしやす

いということで、指標の中では取引量が拡大するのです。ところがWTIの原油はテキサスの周辺で生産され、その量は一日六〇万バレルしかないので、それが全体相場を大きく動かしているのが実態です。

現在の全世界の全体の原油消費量は一日、七〇〇〇万バレルと考えられています。WTI指標の高々六〇万バレルの原油は何と三六〇〇万バレルの原油取引となります。しかもNYメソクスでは、一日当たり三億バレルの取引量があります。所謂、実需とはかけ離れた取引が行われているのです。値段が上がれば、取引量はさらに拡大し、ヘッジ・ファンドとか年金ファンドが利益を求めて益々入り込み、その結果価格が大きく動くこととなります。高止まりの懸念があります。

最初にお配りした図表を参考にしてください。★印はサウディ、☆印は中東全体（サウディも含む）の数字です。

OIL	At end 2005						
	At end 1985 Thousand million barrels	At end 1995 Thousand million barrels	At end 2004 Thousand million barrels	Thousand tonnes	Thousand million barrels	Share of total	R/P ratio
Proved reserves							
Iran	59.0	93.7	132.7	18.9	137.5	11.5%	93.0
Iraq	65.0	100.0	115.0	15.5	115.0	9.6%	*
Kuwait	92.5	96.5	101.5	14.0	101.5	8.5%	*
Oman	4.1	5.2	5.6	0.8	5.6	0.5%	19.6
Qatar	4.5	3.7	15.2	2.0	15.2	1.3%	38.0
★ Saudi Arabia	171.5	261.5	264.3	36.3	264.2	22.0%	65.6
Syria	1.5	2.6	3.2	0.4	3.0	0.2%	17.5
United Arab Emirates	33.0	98.1	97.8	13.0	97.8	8.1%	97.4
Yemen	0.1	0.1	2.9	0.4	2.9	0.2%	18.3
Other Middle East	0.2	0.1	0.1	†	0.1	*	4.6
★ Total Middle East	431.3	661.5	738.2	101.2	742.7	61.9%	81.0
TOTAL WORLD	770.4	1027.0	1194.1	163.6	1200.1	100.0%	40.6

サウディにおける一九八五年末の埋蔵量は一七一五億バーレル、それが一九九五年末には

二六一五億バーレルになります。二〇〇五年末には二六四二億バーレルとなって、この一〇年間で、数量に大きな変化はありません。

中東諸国全体はとりますと、二〇〇五年末

に確認されている埋蔵量は七四二七億バーレルとなります。★印の右端の数字を見て下さい。

サウディの六五・六はこのままいくと六五年六ヶ月の埋蔵量が存在するということ、一方では六五年六ヶ月で枯渇するということを意味します。全世界の埋蔵量はとすると、もしこのままの採掘量が続くとすれば、又新たな発見がないとするなら四〇年六ヶ月で、枯渇するということを意味しています。原油は間違いなく、有限なのです。

有限の速度は、多分加速されるだろうと思われます。ご承知のように、中国、インドの消費は著しく伸張しています。このままでは四〇年

間持ちこたえることが出来るでしょうかと云うのが今の世界の姿なのです。

では、本当に四〇年で枯渇するのか、というのも同じようなことが言われ続けてきました。確かに、これまで幾多の新たな埋蔵量が発見されています。しかし残念ながら、採掘するには余りにもコストが掛かる油田が多いと云われてきました。けれども問題は、コストばかりではないのです。

こうした新たな発見は、その多くがイスラムの世界にあるのです。ということは、石油の新たな採掘は民族主義台頭の中に入り込んでしまう仕事となります。正に地政学的リスクと向き合うことになります。所謂、世界のメジャーといわれている、石油会社でさえ、なかなか手を出しにくくなつてきています。そこで、国の方を利用しなければ難しい。ここを徹底的に活用し始めたのが、ブーチン大統領です。例

えば、サハリンの問題など、認可を得て国際的シンジケートを作つて採掘してきたものを、突然ナショナル・インタレストに関わる問題として、合意事項を破棄して権利を取り上げてしまうというやり方です。中国も然りです。ロシアと中国の力が拮抗している中央アジアのカザフスタン、トルクメニスタンなどは、ナショナル・インタレストと民族意識台頭の中で、厳しい中でも微妙なバランスを必要としています。又、確認された埋蔵が国境を挟んで双方に存在するという国家紛争となりやすい地域の油田の処置はむずかしいといわざるを得ないでしょう。こうした点からも、埋蔵は確認できても、すぐには出てこない、従つて量的には限界があるんだということを喧伝して、価格を高く誘導しようとしています。

それでは、こうしたことが原油高の主因かといふと、矢張り本当の所は世界的なお金の過剰流動性ではないかと考えられます。本来、余り

持つて欲しくない人たちが、お金を持つてしまつたということです。云うまでもなく、中東諸国の国々が、沢山持つているということです。云うまでもなく、中東諸国の国々が沢山持つているということです。最近の調査でわかつていることのひとつが、中東諸国に流れていったお金の中で使い道の判明しているのは、全体の三〇%強で残りはどこに消えているのか判然としないことです。運用の公開義務のないヘッジ・ファンド等が問題なのです。少なくとも原油収入の五〇%近くがヘッジ・ファンドなどに流れていると考えられています。これは、最近のアメリカでの住宅問題、所謂、サブ・プライム問題にも絡んだ問題でもあります。

翻つて、日本はどうなんだということですが、日本は原油消費を非常に節約しているのですね。過去二〇年を見ると、日本の原油輸入量はほとんど増えていません。日本の年間年輸入量は約四六億バーレルです。トン換算二四〇一二

五〇万トンとなります。しかし、世界ではブリックスを中心として消費量が増大しています。中国、インド、ロシアなどは消費の拡大と共に環境汚染が進んでいます。日本は省エネと環境対策では世界の先進国であり、優等生であります。地球規模での環境問題対策については、日本が大いにリーダー・シップをもてるということです。日本の技術立国としての将来像が目に見えてきます。ただ、残念ながら、ここで潤えるのは大きくは大企業に偏重しそうなことです。何とか日本全体がバランス良く栄えると良いのですが、これは大企業の姿勢と政治次第でしよう。

地方の格差と共に大企業と中小企業の格差をなくしていかなくてはなりません。正に、政治の良し悪しが全てとなりましょう。政権の座についた安倍総理が、中国に行き、その後、中東に行きました。これからはエネルギー保全をしつかりとやらなくてはならない。その為、”

中東へ行かなくては”と大デレゲイションを組んで三〇〇人以上の財界人を引き連れて行きました。直前に、サウディ問題では、私も勉強会に参加しました。その折に感じたことは、政府関係者は一〇年前、二〇年前と同じことを言っていることです。全くの進歩を感じられないということです。要是油を買うためには中東諸国にもっと投資をすることで、相手からしっかり油を貰おうということです。油が一〇ドルそこそこの時は、確かに相手側も国家収入に汲々としていましたから、投資は有難かつたのですが、今は当時と全く状況が変わりました。投資は有難いが、それに伴う技術を出せといわれて困ってしまうのです。ドバイを見てください。日本にも無いような超近代ビルが林立しています。ただ、未だ基本的なインフラは伴っていないのが実情でしょう。サウディを中心として中東の国々は日本の自動車産業の進出を切望しています。日本にしてみると、中東諸国に

進出する前にアジアが先だということで、まだまだ噛み合わない課題であります。

(つづく)

〔宴席の冒頭〕

理事長　今日は十一月十五日、フランスのワイン、ボジョレー・ヌーボーの解禁日であります。つまり新しいワイン、フランスワインセ

ラーで静かに眠らせて香り高くじっくりと醸造されたもので、今日から蓋開けの解禁日です。富士屋ホテルが特注で仕入れたものです。新しいワインを以つて、皆様のご健康と弥栄を祝い乾杯いたしたいと思います。

乾杯の音頭を、近三商事株式会社の会長であられる森郁二様にお願い致します。森会長には日頃大変ご交誼、ご鞭撻にあずかり、いつも感謝申し上げているところであります。

森郁二　私は、日本橋室町の近三商事株式会社の森と申します。ビル経営をいたしております。佐々木さんに、いろいろとご指導を頂いております。今以つて現場に出て働いております。で、今年九十五才になります。佐々木さんから、お声が掛かると、ついつられて出て参ります。ご指名によりまして乾杯の音頭を取らせて頂きます。(皆さんご起立して頂きましょう) それでは、乾杯！(拍手)

理事長　ありがとうございます。日頃、畏敬して止まない森会長さんについて、少し述べさせて頂きます。古くから華のお江戸の日本橋は、室町三丁目交差点に大きなビルがございます。近三ビルの本丸ですが、このビルは村野藤吾先生の設計により、竹中工務店が建築したものでして、知る人ぞ知る、村野先生は帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライトと並び称されて、日本の近代建築の道を拓いた功績大なるを以つて栄誉ある高名を近代の歴史に

とどめております。日本の各地に村野先生の建築物が残されております。

ところが残されて保存されているものもございますが、第二次世界大戦の戦争の被災につけて、「ごく僅かな数になつております。森会長さんのビルは、その日本橋室町三丁目に、その堂々たる威風を誇つて、今は東京都の重要建築物に指定されております。皆さんが近くに行かれた節には、是非ご覧いただくとよろしいのではないかと思います。

第二次世界大戦で東京は激しい空爆にさらされました。昭和二十年三月十日の夜間に亘る焼夷弾攻撃では、壊滅的な打撃をうけ、下町全土が焼野原と化しました。当時、東京駅から眺めますと、日銀の旧本館、それから森会長さんの現在のビル、遠くへ行きますと浅草の松屋、確かに、神谷バーの建物も残つていたかなあと思います。更に遙か先には、お化け煙突、荒川土手近くに四本の巨大な煙突がありました。そ

ここまで茫々として見渡せた一面の焼け野原だつたことを思い出します。
そうした中で残された近三ビルは、もちろんその後生れ変つたように改装されましたが、今に残された当時の建築技術の粹を集め、堅牢不落で、芸術的な価値を持った唯一のビルディングであります。重厚且つ華麗な風格を以つて、皆さんの胸に迫つて来ると思います。残された村野藤吾先生の作品の中でも傑作中の一つであり、名門の森会長さんのビルの一つであります。一度堪能されることをお薦めいたします。

(感想)

歳森史人

昨夕は有意義な講演会を催して下さり感謝いたします。隣に自分が掴みかけた事象が史線の端での経験から、統計などの裏付けを語られると、自分の知識が確実になり、自信を深めることができます。心満たされて帰宅できました。これが昭和経済会による講演の効用でしょう。在外公館のブリーフィング、在留邦人に自らを閣下と呼ばせるお偉いさんの見解は、ワシントンポストやNYポストの論調そのままで聴くに値しないと言われています。商社の持つ情報の方が、量的にも質の面でも勝っているからです。

佐々木和男氏が「自身の心を、自分の言葉で

語るところになによりも魅力を感じます。数年前のご講演で、氏のお人柄とその態度を知り今回も拝聴させていただきました。

私たち、庶民からすれば、東大法学部卒業後

に輝かしい経歴をお持ちでありながらも、「国」の発展の恩恵が国民の各層にまで及んでいない」とのご指摘は誠に公正なもので貴重でした。「国の将来は、国民の福祉の向上により繁栄に導くことにある。民の幸せは、大企業の姿勢と国策に依拠している」と私は理解させていただきました。

氏と同じ視点を持つ東大法学部出身者が少しでも多くいたならば、現在の政官癡着が生んだ体たらくは無かつたと残念に思います。大企業のリーダーを戒める氏の勇気ある発言に、拍手を送り度く存じます。

政治家は民によって支持され、企業は株主ばかりでなく消費者によつても支えられています。国は政治家や大手企業経営者のみならず、額に汗して働く一般市民や零細な商工農に從事する者によつても支えられていることをこの国のリーダーに今一度思い起してもらいたいと思う次第です。

十一月十六日

一〇〇七年度の

日本経済を読む（四）

千葉商科大学大学院教授

斎藤 精一郎



それから地方を見ると、地方の人口は減つていきます。ここで新しい地域隔差について資料をご用意しましたが、今、人口の減少の都道府県を見てみましょう。現在のところ、即ち二〇〇一年から二〇〇五年は、三十二の都道府県で、人口が減っています。二〇〇六年から二〇一〇年は、三十六の都道府県。二〇一一年から二〇一五年には、三十八の都道府県と増加していく、あと十五年後の二〇二〇年には、何んと四十五の都道府県が減つて、人口が増えるのは二つだけです。

四十七の都道府県で、人口が増えるのは二つだけという推測です。それはどこのか。滋賀県と、沖縄だけです。沖縄はあつたかいし、恐らくいろいろと生殖意欲もあるでしょう。滋賀県は、要するに関西地区は住むところが少なくなつてきて、滋賀県に人口が流入してきています。マンションなどが今、物すごく建つてきています。滋賀県と沖縄だけで、あとは人口がみんな

減つてしまします。特に地方の減り方は大きいのです。

それから高齢化の問題です。夕張がすでに高齢者が四十三%になつていて、若い人がそうした地域から皆んな出ていつてしまつています。大都会には、働く職場が沢山あります。そこへ若い人は、どんどん出て行きます。すると地方の高齢化が益々ひどくなります。むしろ地方の方でです。

それから地方にいる人たちは高齢化でもあるし、その上、全体に低所得です。もちろん厚生年金、共済年金の人もいますが、地方には国民年金の人が可成り多いのです。それらは皆、自営業の人です。ご存知のように国民年金の人は、夫婦で四十年入つていて、月八万円ですか、夫婦で十六万円、一年で百八十万円です。云えることは、地方は所得も低いし、そして過疎地であります。

そうすると日本の千葉県から東京、神奈川、

今も、経済隔差と云う問題が深刻です。フリーだから日本が二つに、明るい面と、暗い面に分かれています。良く見ると景気がどうもすつきりしないのは、ダークの部分が足を引っ張っているのということなのです。ベルト地帯は、どんどんと前向きに、時代に合つてきていて元気です。それだけを見ていると、日本は本当に問題ないのです。しかし地方へ行くと差が出てきます。

ーターや、若い人の問題ですが、これは三年から五年すると、ほとんどなくなるのではないでしょうか。というのは、企業家、会社は皆さんが若い人を欲しがるからです。ですから、それは本当の隔差問題ではないのです。むしろ問題は、地方と大都市との隔差問題で、これが抜き差しならなものとなつてきています。

実際の数字で具体的に考えてみましょう。経済規模で見ると、地方は最低限、三千億円ぐらいの年間の規模が必要なのです。そうすると三千億と云うと、一世帯の所得を年間三百万としますと、三千億にするには十万世帯が必要です。一世帯当たり一人や、三人の構成として。十万世帯と云うと、二・五人とするとき、二十五万の人口をかかえた地域圏がないと、経済は自立できないということになります。

今、起こっているのは、去年、「存知の通り街づくり三法の改正案ができました。なぜか。イトーヨーカドーとか、イオンが出てきてしま

いのです。そうすると夫婦でやつていると、やついていてもどうゆうスーパーができますか、空洞化してしまったからと云つて、それでは中国へ行つちやつたり、ベトナムへ行つたりするかと云つたところで、そんなことはできるわけがありません。もはや下請けではやつていられないのです。そして経費だけがかかつてしまします。

じや、商売、仕事をやめるかと云えば、それでも幸いです。幸い皆さん、これまでに一生懸命働いてきました。坂の道を上がつたり下がつたりしながらも、二〇〇五年までは、ばかりと何とか命をつなぎながら行つたわけですから、個人的に蓄積は可成り持つてているのですね。それから年金はまだ動かしていません。いや、まあいいやと云つて、殆どが自主廃業です。ですから金融機関も貸さなくなつてしまいますが、返せと云えれば借金も整理して返し、それであとは静かに行くというわけです。

そうゆう点で暗いけれども、そうゆう深刻な

うと、街がシャツターハウスになつて空洞化しますが、幸い奥で首吊り騒ぎが少ないので。それは何故なのか。いろいろ調査してみたのですが、そういうところの商店、肉屋さんをやつていたとか、魚屋さんをやつていた、雑貨屋さんをやつしていたと、あるいは小さな工場をやつていた、町工場をやつていた、そうゆうところを見ると、大体、娘さんはお嫁に行つてしまつたとか、息子さんは大都市や、外国に働きに出でつてしまつているとか云う家や家族が多いのです。

シャツターハウスが多くなり、街が暗くなつてます。シャツターハウスで、幸い奥で首吊り騒ぎが少ないので。それは何故なのか。いろいろ調査してみたのですが、そういうところの商店、肉屋さんをやつていたとか、魚屋さんをやつていた、雑貨屋さんをやつていたと、あるいは小さな工場をやつていた、町工場をやつていた、そうゆうところを見ると、大体、娘さんはお嫁に行つてしまつたとか、息子さんは大都市や、外国に働きに出でつてしまつているとか云う家や家族が多いのです。

社会問題になつていないので、本当に幸いなことであり、これは過去の成長の恩恵がまだ支えているということになります。しかしこうした状態がこの先五十年続くことは、まずあり得ませんね。どんなに転んでも、ここ十年か、二十年かと思います。そうゆう形で、三千億円の規模が必要です。

そうすると平成の大合併でがんがんやつたので、三千二百億あつたのが千八百億になつています。これがでもちょっと多すぎます。平均するとどの位でしようか。そうすると、どう見ても最低三千億円の単位が必要ですか、列島を最低二十五万から三十万の都市に集約しなければなりません。そして田舎から出てくるのが嫌だなんて云う老人は確かにいますが、そうやつていると今度は雪が降つて閉じ込められたりします。するとヘリコプターを出したりして大変です。だからそうゆう方は、春か夏にバスクなんかで巡回して、週に一回ぐらい行くよ

うにし、悪いけど強制的に、コンパクトに集中する必要があると思うのです。

集中すれば病院だつて集中できるし、商店も出てくるし、若い人が出てきて、コミュニケー
ションも出できます。そうすると、どう見ても二十五万ぐらいの最低の都市単位として、これをコミュニティとすると、これが合計して大体百三十ぐらいになります。そして二十位までが百万位以上の都市とします。今度は新潟と浜松が政令指定都市になりましたが、これで十七ぐら
いになりましたかね。二十ちょっとぐらいが、百万都市です。これがグレート・シティ、大都市
ということがあります。東京とか大阪、仙台といつたそうゆう所ですね。そして他の三十ぐらいが、二十万から三十万の都市ということです。そうい
った規模と、数に集約してしまうのです。

過疎でいなくなつた所をまさに田園として環境的に残し、そこに里山としてむしろ残すべ
きなのですね。むしろ人の住むところを、いや

まま道州制にしても、過疎が残つてしまい、その道や州は、経済的自立じやなくなつてしま
います。むしろ経済的に見合つた土台となるコミュニティをきちっとして、そこで商業だとか、いろいろなビジネスが成り立つようにしてやることです。ある程度、まかなえる、吸収できる
ような所を作る。これが二番目の問題です。この展望が全く開かれていません。これは政府
が、政治が、良い悪いもあります。残念ながら、
そうした発想は今のところ全くありません。日本はこれから先も、このままでは地方はどうな
つてしまふのかと云うことでしょう。

三番目、最後になりますが、デフレが終つたにもかかわらず、前に行こうと思っても行けないのは「熱つものに懲りて…」ということです。これは時間の問題です。地方のこれから復元の問題というのは、手付かずの問題にあります。道州制なんて云いますが、そんな問題ではありません。次元が全く違うのです。

だ何だと云うことを止めもらつて、その代わり病院だとか、あらゆる公共的なサービスもち
やんと整えることにする。もちろん春とか秋には巡回し、まあ、そつちで過ごしたい人は夏を
過ごせるように手当てをするということです。
そして残りの百五十ですが、これが大体五十五
から百万の人口で、地方の都市、中堅都市とな
ります。熊本だとか盛岡だとか、そのくらいの
都市になりますと、五十万前後の都市というこ
とになります。そうすると全部で三百です。こ
れは前々から云つてることですし、民主党の
小沢さんなんかは三百二と云っています。

そういうたコアとなる経済規模が成り立つ
ように集約すると、今の千八百と云うのを三百
に集中するようになります、それをしなければ
ならないのに、何故か、政治家は道州制のこと
ばかり云つているのです。過疎化のまま残して、
いくら道州制をやってもしようがないのでは
ないでしようか。過疎化のまま残して、過疎の

やはり日本は、デフレが終つてやつと大きな
転換期に立つて見ると、三重苦が待ち構えています。一つは先程云つたことで、人口がどんどん減つてきますから、市場の規模が量的に縮ま
ってきます。今の企業のままでは、生き延びて存在しえなくなるでしょう。これだけ人口が減
つてきて、しかも高齢化しますからね。高齢化
した人は、余りお洒落もしなくなります。物も
余り食べません。当然、マーケットは急速に縮
小してきます。してみると、今の企業は明らか
にオーバー・カンパニーです。ですからM&A
は必至だし、これからも益々、倒産・淘汰が起
こるでしょう。そうすると、これらのマーケ
ットをどうやって確保してゆくかという問題
です。これをどう考えたらよいか。やっぱり世
界に目を向けるしかありません。

二十年前のプラザ合意で、円が二百四十円から百二十円に上がつてしましました。その時からトヨタは、何故か三河問答と云われる程に

三河市から工場を海外に移してゆきます。二十

年前の例のプラザ一合意を契機に、トヨタは目醒めたかのように工場を持つて世界に出ています。行く先々は、アメリカ、ヨーロッパ、イギリスですね。そして今や中国、ロシア、インドにも進出しています。今年から来年にかけてトヨタは生産台数の半分は、海外に生産拠点を持ち、海外にマーケットを移しております。企業の大飛躍を目指したグローバルゼーションです。

つまりマーケットをそのようにしなければ、もう維持できないのです。国内にはマーケットはもうないのです。ですから大企業にとっても、中小企業にとっても、下請けをやるところといつても、国内マーケットよりも、世界を見なければいけません。それが日本では今は円安がいいと云っているものですから、海外に行くなら円高でないとなかなか海外に行きません。輸出していればいいじゃないかと云うことです。で

すから政策が完全に間違っているのです。

これはアメリカの教訓として見るところですが、アメリカがなぜこの十年間、非常な成長を遂げてきたかです。アメリカは一九九五年、あの頃は本当にだらしないと云われていましたが、丁度あの頃にIT関連産業が台頭しました。ITと云う言葉は一九九四、一九九五年からできました。そこでアマゾン・ドット・コムが誕生したのが一九九四年から一九九五年です。マイクロソフト、ウインンドウズができ、それがインターネットとつながることによって、完全にIT・インターネット時代が到来しました。それが一九九五年です。それから急にアメリカ経済はブレイクして来たのですね。

(つづく)

バブル崩壊の前後で

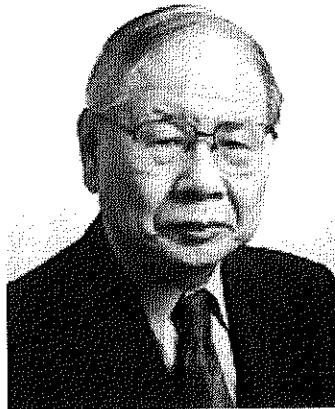
世の中はどう変わったか(七)

（株）産業再生機構・産業再生委員長

高木 新一郎

理事長：“みづからの立場をこれから先が長くないと、精肝な高木さんも、佐々木さんも云われていましたが、謙虚になりすぎて、遠慮されているのではないかでしょうか。私はむしろこれから先、自分としてやるべき事が沢山あると自らを戒めむち打つて是非とも生きしくいきて行く、積極的に、プログラシーブに、アタクティーブに人生を渡つて行きたいと思つてゐるのですが、欲が突つ張つてゐるでしようか。

そこでサウジ石油化学の社長を務めた佐々木さんは、アラビアのサウジの王様や高官と色々と接渉し、友交を深めて來た経験を踏まえ、これから先、原油の価格はどうなつてゆくのか、予想が外れてもいいのですが、云つてくださいますかね。この間七八ドルという高値をつけたあと、今は幸いに五八ドル台で落ち着いております。原油価格の動向は、グローバルな社会にとても重大な影響を及ぼしてきます。それに左右される経済状況が、政治に与える力も大き



く、じや氣される經濟の混乱が世界のならず者
国家に弾みを与えるかねない世界の状況です。先
づ經濟の安定、そして持続的成長率を世界が維
持していかなければなりません。かような見方
からすると、原油価格の動向は見逃すことはで
きませんので、エネルギー資源についても見解
を披れきして下さい。

佐々木 “私はそちらの方の専門家ではな
いのですが、実は今でも中東調査会というのが
あります、これは外務省の外郭団体ですが、
中東情勢について色々と議論をしています。た
またまその評議員をしておりますので、そちら
へ顔を出しております。で、ご承知のように原
油価格と云うのは従来、オペックの決めたバス
ケット方式というのがあります。その天井が大
体三十ドル位で、十四、五ドルから三十ド
ル位でリンクしていたのがバスケット方式の
常識だったのですが、この二年位の間でご承知
のように八十ドル近くまで昇つてしまつたと

油に代つたエネルギーを開発生産して、それに
よつて石油消費がマイナスに転じる可能性が
あるとか、そういうことが無い限り、大きく売
られることはないと云われてお
ります。

そこで一つ大きな問題は現在、原油の値段が
中東諸国に流れています。これはロシヤについて
なお金になつています。これはロシヤについて
も同じです。そして彼らには、投資すべき先が
ないのです。自国の産業を育成すること、これ
は勿論やるのですが、おのづと限度があるので、
やはりそのお金が、お金を生む方向を狙つてい
ます。

どういうことかといふと、そうしたオイルマ
ネーに等しいものが世界を駆け巡つてきてい
ます。そこで彼らが一番注視しているのは、東
南アジアの一部であり、ましてや中国、こうし
たところにお金がどんどん流れていつています。
もちろん日本にも大きく入つてきています。

いうことであります。

それではこれが限りなく昇つていくのかと
云うと、これも非常に問題があります。オペッ
クを中心とした中枢の人たち、サウジを中心には
する人たちは余り値が上がると世界經濟が冷
え込んでしまうし、冷えたら又、暴落する悪循
環を危惧しています。暴騰するようだと、これ
を下げようとする国と、いやいや冗談じやない
と、取れるときは全部取れという国とが非常に
拮抗しています。但し最近は世界經濟が安定志
向になるためには、どのくらいがいいのだろう
かなと云うことは議論されているようです。そ
して七八八ドルだと、七十ドルとかいうの
はトニー・マッチであつて、要は五十ドル位が
いいのではないかというのが大勢の意見だそ
うです。しかし三十ドル台になると余程の天
変地異でもない限り、ないかも知れない。例え
ば、どこかで非常に大きな油田が開発されたと
か、或いはどこかの国が石油代替、いわゆる石
油の代用エネルギーを開発生産して、それに
よつて石油消費がマイナスに転じる可能性が
あるとか、そういうことが無い限り、大きく売
られることはないと云われてお
ります。

そういうのが先程来お話をあつたような堺
鷹フアンドのようなどころに移つて、お金が流
れてゆく。そうするとそういうところに力が変
な形で日本經濟のなかに浸み込んでくる可能
性が非常に大きいのです。従つてこれから銀
行經營をしている方、あるいはこれからそし
た分野を志望している人たちが、そうしたお金
をどのような方向で活用してゆくのか、そし
たサジエスチョンなり、アイデアなりを出して
ゆけるような人が日本にどんどん出てきて、世
界にうまくお金を還流させるような、そういう
ことも考えなくてはならないところに來てい
るなあと思います。

ただ日本では株の方に大分お金が流れでき
ているようですから、この活動は大きくなるか
も知れませんが、それでは日本の産業にどの程
度投資してゆくかということになると問題も
あるようです。日本の産業は一部の企業でけが
魅力的で、あとは余り魅力がないと、もつとも

つと中国へ行つたり、インドに行つたり、他へ行つたりすれば年率八パーセントで回るんだ、十パーセントで回るんだという国々が沢山あるんだということも考えておかなければならない問題かなあと思います。

理事長　“マネーの動きが俎上に乗つてきましたので現実味が増してきましたが、大和証券の銀座支店長の金村さんが見えています。ニューヨークはこのところダウ工業三十種平均が史上高値を更新中ですが、ひとり日本の株式のみがカヤの外の感をゆがめません。今後の日本の証券市場の動向についてはどのような見解をお持ちでしようか。

金村（大和証券銀座支店長）　金村です。証券市場の方は今日の新聞にも出しておる通りですが、投資信託の方に銀行さん、郵便局さん、こういったところの販売力というものもありまして、可成り郵蓄から投資へという流れが根付いております。九月までですと毎日十二

うことをしてた多くの人は自己破産するということになつていています。私は弁護士を今百パーセント辞めてしまつてますが、そういう結果になつている人が結構います。それから、どちらが正常なのかということですな。

こう云つては何ですが、若いころは、そういう人たちが羨ましかつたですね。親の褒美を継がれた方は羽ぶりが良くてね。ところがそういう人たちはどうなつたかと云うと、今でもちやんと立派にやつておられる方は、親から引き継いだ事業を、ビジネスモデルを、全然変えちゃつている人たちですね。そのまま続いている人は、皆自己破産してしまつています。そういう時代になりましたね。今、再チャレンジと云うことで事業継承の問題を先ほども取り上げられていました。そうゆう刺激のある時代の、変化に応じた対応を個人々々がしてゆくということが大切だと思います。日本はもともと資源の乏しい国なのですから。アメリカなんか結構

億の金が郵便局から投資信託に流れていったのですが、十月から販売する局も可成り広がりましたので、毎日二十四億円程の資金が流入しているような状況であります。証券市場といつたのもこうした投資信託、それから外国人の買いもあり、個人の投資家の方も参戦していきますので、日経平均も明るい形で今後続くものと思つております。

杉田　“皆さまからいろいろ意見をお願いしましたが、貴重なお話ありがとうございます。最後にもう一度高木先生から統括して頂きたいと思います。

高木　“統括と云うわけでもありませんが、ただひとことだけ申し上げますが、僕らは昭和三十年代の後半に社会に出て、ずっと高度成長を続けてきたわけです。三十年代前半には、毎晩銀座の高級クラブで豪遊なんていう人もいました。私たちはそういう時代の波に乗つてきましたから、耐久力がないのですね。そういう

だらしがないですね。それでもいろいろと資源のある国ですからしいのです。日本は資源がないのですから、我々一人ひとりがしつかりしてゆくしかないんだなあと、そんな意味からすると我々の世代と云うのは随分甘やかされた時代なんだなあとと思うのです。これから若い人们は、そういう点はきちんとやつてくれるのかなあというふうに期待している次第であります。

佐々木　“ひとこと閉会の辞を述べさせて頂きます。今のお話の拍子にもありましたように、今日は高木先生をお招きして、どちらかと云うと大胆で豪放なお話を伺えるのではないとかと、面白半分な気持ちで参りましたところ、さにあらず、大学教授らしくレジメ、テキストを用意されて、真面目で教訓的なお話をされまして、これはこれで大変勉強になりました。追つて又時を改めて高木先生の生きざま、これは面白いですよ、その時は「世に吠える荒武者」

とでもタイトルをつけたいくらいです。恐れを知らず、豪放磊落で、私は高木さんの一から十まで知っているつもりなので、余り眞面目な話をされましても如何なもんかな、でもやつてんだなあと云う感じでおりましてね。私は或るシンを思い浮かべるのです。世を時めく横井秀樹、例の白木屋乗つ取り事件で大暴れをして、論議をかましたり、又、赤坂のホテルの火災事件もありましたね、横井秀樹さんが高木さんの事務所で一喝されている場面を見ておりますので、これは凄いなあと思ったのです。だいたい高木さんの事務所に相手方を連れて参りました、取つ組み合いの喧嘩をやり始めかねないのです。人情味もあって、機を見るにて敏、それから正義感に溢れています。ですから今日に至るも、こうして社会のために、広くは世界のために働いていらっしゃる証しではないかと思うのです。弁護士の世界でもトップクラスですし、世界的にもトップクラスです。ですから国

すよう祈っております。

中村節（㈱アサヒ・エヌ・コーポレーション
会長） “ 中村でございます。ご指名なので閉
会のご挨拶をさせて頂きます。高木先生、本日
は含芸のあるお話をして頂き誠にありがとうございました。今日は私だけでなく、両隣りにお
りますところの、今後業界をリードして頂く若
いお二人に誘いをかけまして、馳せ参じました。
高木先生の今後益々のご健闘と、本日ご来会の
皆さまがたの御健勝を祈りまして閉会の辞と
させて頂きます。皆さんありがとうございます。”

(完)



作品 関根常雄

際倒産協会というのがニューヨークにあります。そこに高木新二郎賞というのが設けられています。その道で優れた業績を残した人に對して世界的に認められて与えられる賞です。又、先般も高木新二郎奨学基金というのが東京大学法医学部のなかに設けられました。将来、若手の弁護士を育成してゆくと云う理整に燃えている情熱家であります。生々しく生き抜いてきた人生か、それはそれとして、とにかく最後まで正義を全うされてと…、余り余分なことを云いますと、歯の浮くようなお世辞をたれるなと叱られますので、この辺で止めておきましょう。ついては今日は、将来のビルゲイツ、将来のアルベルト・シュバイツァー博士となるような若い人たちも沢山見えております。益々の勉学と希望に燃えて日々健康に前進していくつもりたいと思います。会は諸君たちのため支援を惜しむことなく、積極的にサポートして参りますので、切磋琢磨の毎日を過ごされま

わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

狭い地球・多すぎるクルマ

(一九八七年一月十日記)

今年、日本の自動車生産が八年連続世界一の座を占められるかどうかが注目されている。日本自動車工業会の年末推計によると、昨年の四輪車生産台数は千二百二十六万台、米国は千百四十万台で、日本は一九八〇(昭和五十五)年以来、七年連続世界一になった。

日本の自動車のほぼ半分は国内で売れる。昨年の国内新車販売台数は五百七十二万台だった。今年は円高の影響で輸出、とくにその半分近くを占める米国への輸出が減少するだろうから、国内販売高を伸ばせるかどうかが、八年連続世界一にならなかった。

も輸出競争に加わって来る。米国では九〇年ごろには米軍、輸入車合わせて乗用車の供給力は千五百万台前後になるが、需要は千百万台前後。したがつて四百万台前後の供給過剰が予想される。日本の自動車工業の前途も多難だ。

と、ここまで陳腐な数字と見通しを書き並べたが、実はここでコペルニクス的転回をする必要がある。狭い地球にもう自動車が多すぎるのだ。米国、カナダ、西ドイツではほぼ一人に一人が乗用車を持つている。西欧のたいていの国では三人に一人。日本は四人に一人だが、それでも多すぎて困っている。現在のような生産・販売競争がいつまでも続くなはない。

二十年後を考えみよう。いま五十億足らずの世界人口は七十億前後にふえる。都市化現象が進んでそのうち五十億が大都市に住み、その二人に一人がクルマを持つとしよう。地球は排気ガスの汚染に耐えられるか。空き地には廃車の山ができるのではないか。

界一を実現できるかどうかの分かれ目になる。

国内の販売合戦は、実は昨年六月から始まっていた。トヨタが「T—50作戦」という販売攻勢をかけ、月末には四九・二%までふやし、そこで挫折したが、十月には五三%と目標を突破した。ただし、日産の逆攻勢で十一月には、四四・七%に落ちこんだ。今年はシェア合戦がいつそう激化するだろう。

輸出不振対策のもう一つは現地生産だ。米国では一九八二年に生産を開始した本田技研先駆として、日産、トヨタ、マツダ、三菱、富士重工、いすゞの各社で一九八九年には百七十七万台、カナダでは本田、トヨタ、鈴木三社で同年までに三十三万台、合計二百十万台を生産する予定だ。これに現在の日本車輸入枠二百三十万台を加えると四百四十万台になる。

そのほか韓国が今年すでに米国、カナダへ五十万台前後の輸出を見こんでおり、今後数年間に急増しそうだ。いずれその他的新興工業諸国

「自動車文明」という生活様式そのものを考え直すべき時が近づいている。

究極目標は一つの自由な世界

(一九八五年一月十二日記)

八日の米ソ両外相共同声明は、「核兵器の廃絶を究極目標」にすると宣言した。

過熱化した当事者がようやく当然の出発点まで立ちもどつたので、世界は一応ほつとすることができる。共同声明の数日前、ある友人がいつた。

「世界の未来について全く見通しがつかなくなつた。たとえば、核戦争は無くて済むだろうか?」

「核戦争は起こらない!」

私はこう言い切つた。彼がけげんな顔をしたので、付け加えた。

「もちろん、理論的には技術的ミスによる核

戦争、通常兵器による局地的戦争の全面戦争への拡大など考えられる。だが核戦争は、起こしてはならないし、起こらない。」

幸い、ジュネーブ会談をきっかけに核戦争を起こさないための話しあいが再開されることになつたが、前途は多難、具体的な成果はすぐには期待できない。今後交渉していく三分野の兵器をみると、中距離核兵器では、ソ連はSS20を配備したところで均衡が取れたとしているが、米国側はまだソ連が優越しているから欧州にパーシングIIなどの配備を続けるのだ、という。戦略核兵器は、ソ連が抑止能力をはるかに超える量のミサイルと核弾頭を保有している。だから、米国は「相互抑止戦略」を建前としながら、実は先制代一撃の能力保持に力を入れてきた。宇宙兵器（SDI）、戦略防衛構想は、「相互抑止戦略」から転換して、宇宙でソ連の戦略核を「全部」討ち落とす構想だ。だからレーガン大統領は「人道的」だというが、「全部」打

ち落とせるわけはない。その上、超低空を飛行するミサイルなどは始めから捕捉できない。完全防衛は不可能にきまつている。

だが、その防御兵器にソ連がなぜ反対するのか。宇宙でほとんど討ち落とされるとなれば、核戦争に勝つにはいまよりずっと多量の核兵器をもたなければならぬ。

軍備管理交渉をしながら、こんな悪循環を続けていけば、米ソ両国ともいよいよ軍事負担に耐えがたりなり、妥協せざるをえない気運となる。両国以外の世界からの軍縮推進への声も高まる。

交渉が続いていれば、東西両世界の経済・文化交流も深まり広まる。そのなかでの「東」の自由化はとどめることのできない歴史の潮流である。やがて、核軍拡は核軍縮に転じる。人類の究極目標「一つの自由な世界」が近づき、核兵器の廃絶が日程にのぼる。その時まで核戦争は「起こらない！」と言いたいのだ。

心豊かに力強く生きる

井浦 康之

（当会理事）

届けてから、またまつ暗な田んぼ道をトボトボ帰る。こんな生活を一生続けるのか、これが俺の青春か、冗談じやない！と心中思い続けていました。

そんな折、日立本社の重役が工場視察に来たときのことです。その人を送りながら、思いつて聞いてみました。「どうしたらあなたのように偉くなり、人の運転する車の後ろに悠々と座れるようになれるのでしょうか？」

聞かれた方はきっと驚いたに違いないが、それでもしばらく考えてから優しい声で「井浦君、偉くなりたかつたら学問をしなさい。学問をしなければ偉くならねませんよ」と言われたのです。このひと言が私の人生の大きな転機になりました。「やっぱり学校を出なくてはダメなんか。勉強しなければ偉くならないのか…」

この思いはしばらくの間、消えませんでした。そう言われて考えてみると、当時の日立は旧制中学以上を卒業しないと正社員になれないまで宴会が終わるのを待たされ、工場長を送り

つたのです。「よし、それなら学問をしよう」というわけで、都立上野高校の夜間部に通い始めたのが二十一歳のときでした。

高校はなんとか卒業してみましたが、それだけですぐに出世できるはずがありません。また、当時は米軍の占領下で、これからは国際的感覚を持たないと偉くはなれないだろうと考えました。

した。それでYMCAsにはいって英語を本格的に勉強し始め、二年間で通訳の資格をとったのです。これが私の第三の転機となりました。

昭和二十七年、十年間勤めた日立を辞め、通訳の勉強を生かすために、沖縄へ渡りました。

日立という大樹にしがみついて生きる道ではなく、自分自身の能力で生きてみようと決心しましたからです。

私のような内気少が積極人間への第一歩を踏み出すためには、これだけの時間と手間ひまがかかりました。

沖縄では、建設会社の現場通訳を振り出しに、

自動車の免許、通訳、セールス、マネージャー、話し方講師、人間力開発トレーナーなどを経て、現在の自分の城をつくったのです。

人生の素晴らしさを知らされた、不思議なめぐり合わせ

今までこそ、生き甲斐と誇りを持つて、人々踏み出すためには、これだけの時間と手間ひまがかかりました。

沖縄では、建設会社の現場通訳を振り出しに、

人生の素晴らしさを知らされた、不思議なめぐり合わせ

今までこそ、生き甲斐と誇りを持つて、人々の幸せのために全国を講演研修活動していくますが、ここに至までに十二の会社を転社し、二種の職種を経験したことになります。

自分の能力を信じて沖縄へ渡つたことが、私の積極人間への第一歩だったとすれば、十二の会社、二十二の職種を経験したことが、積極人間、感性人間への道程だったといえるでしょう。

今までこそ、生き甲斐と誇りを持つて、人々の幸せのために全国を講演研修活動していくのですが、ここに至までに、十二の会社を転社し、二十二種の職種を経験したことになります。

自分の能力を信じて沖縄へ渡つたことが、私の積極人間への第一歩だったとすれば、十二の会社、二十二の職種を経験したことが、積極人間、感性人間への道程だったといえるでしょう。

そう思い続けてきたからこそ、より自分に忠実に生きたい、より自分に合った仕事をやりたい、と考え、いわば青い鳥を求めて仕事を変えてきた、ともいえるでしょう。

私がついに、これを私の天職、と思える仕事にめぐり合ったのが、言論科学研究所でした。いわゆる話し方教室の講師です。私がその専任講師になつたとき、その前の外資系会社営業本部長時代に比べ、私の給与は四分の一に減りましたが、この職業こそ、

工事が完了と同時に内地に帰り、当時の社長の紹介で、三菱系のコンクリートパイプ製造会社に入社し、さらに数回の転社を重ね、外資系会社の営業本部長、話し方教室講師、人間力開発トレーナーなどを経て、現在の自分の城をつくりたのです。

人生の素晴らしさを知らされた、不思議なめぐり合わせ

私が探し求めてきた私の青い鳥だ、と実感できることの喜びの方が強かつたのです。

一年後には、私は前職を上回る収入をあげるまでになりました。現在の湖井浦コミュニケーションセンターのバックボーンは、この仕事の中で築かれたと思っています。

自分自身のこととはいえ、つくづく不思議なめぐり合わせと感じずにはいられません。体が弱い、学歴がない、家が貧乏だ、といろいろな理屈をつけて内気になっていた私が、逆にいま、弱気なんか吹きとばせ、人生明るく、楽しく生きよう、と皆に呼びかけているのですから。

しかし、内氣で損ばかりして、弱気で暗かつた私だからこそ、ほかの人にそう言えるのだと、いまは思っています。

こうして自分の人生の歴史を振り返つても、これといった努力をした覚えはありません。ただ、人生は一回しかないんだから、自分に誠実に生きよう。人様のお役に立てる仕事を

しようと思い続けていたら、いつのまにかいまの私になっていたのです。

人間は、夢を持ち続けるとかならず道が開けます。これは、きれいごとでも何でもあります。私が生き証人です。

何かやろうと思った時は、「この仕事は私にとって楽しいのか」を考えて行動することが判断の基準です。楽しくないのならやつてもならないので、苦しく、不満になるだけです。輪廻転生があつたとしても、いまの自分を意識して生きる人生は一回しかありません。それならば、「明るく、楽しく、生き活きと心豊かな毎日」を過ごし、「人生って素晴らしい。生きているって素晴らしい」と声を大にして叫べる人生を送ろうではありませんか。（完）

昭 経 俳 壇

遠 藤 蘆 穂

野分け去り青空急ぐさぎ一羽 三 郎 宅急便福袋詰めて送りけり

おでんやの月を見ながらひとり酒

○羽子板をかざせしまゝに雷門

玉の井の灯し火暗しなべうどん

クリスマス表通りと裏通り 悟 風

葉牡丹を置きてなんとか畳床

当直のナースが歌ふクリスマス

言 問 や 七 福 神 の 初 詣

教会の十字の祈り除夜の鐘

○引継ぎを終へて警備の晦日蕎麦

○年の暮れ夜の遮断機苛ち勝ち

○行く年の夜汽車無口と饒舌と

夜よりも昼なほ寂し年の暮れ

鳩並ぶ列仲見世通り初詣

冬銀河六十路の迷ひ流したし

大地より音消えにけり今朝の雪

新春や母の帶どめ友に見せ

ひとり身の旅の果てなる冬茜 千鶴子

月山のふもとは深し紅葉狩 山人

花園占むるボインセチアの紺に疲れ

吊し柿日差しもとめて軒つたひ

○絵蠟燭粉雪降る夜の夢そゝる

○新米の俵の匂ひ蔵海丂

みちのくの一軒宿の菊料理

○渋柿の皮むく老婆の爪の荒れ

大根をかゝげて飛驒の山に見せ

○冬菜摘むすなほな妻のうしろ影

桜島 大根切る嫁腕太き

そばがきは旨いものだよ父笑ふ

甲高き子供の声や火の用心

そばがきは旨いものだよ父笑ふ

○土起し稻刈りの穴埋め戻す どんぐり

しめぢ採る乙女の指の白きかな 長谷川

秋耕の朝焼け真中にひとり立つ

落葉掃くあとにしめぢがむらがりて

渋柿の重ぬる樽や背の二倍

指宿の砂湯に埋まり暖炉かな

尼寺のひとめを避けて石蕗の花

鹿鳴きて昔を偲ぶ古都の宿 富貴男

○焼諸をほゝばる舞子のあどけなき

山寺の懐石料理月あかり

こがらしに押されて通勤新開地

H.ドンベル
フェルト

丸まげの飾る稻穂がゆれてをり

○行く末を残るもみじの葉と共に

○銀杏を炒ればひとり身生きる音

かぼちや食べあと一週間のいそがしさ

○太箸を総領らしく使ひ分け

一年をふりかえりつつ柚湯かな

○葉牡丹や鳴門の渦が其処此処に

雪の下沢の流れの静かなる

○鰯酒や法隆寺の屋根いぶし銀

後記隨想

佐々木誠吾

会員で昭経俳壇の投句者である藤代千鶴子姉は、近所に住む妻の友人である。短歌を詠む才媛でもある。加えて宝塚の女優を思わせる麗人である。終身を共同通信社に勤務していた主人を五年前に亡くされたが、一時の孤独から立ち直り、今は明朗、積極的である。これはご主人亡きあと、長く昭和経済会の会員として参加している賜物だと、いつも感謝されている。

千鶴子姉は敬虔なクリスチヤンで、勉強家である上に趣味が多彩で、絵は玄人肌であり、一年後に個展を開く計画を持っている。先日は等々力で開いた絵画教室の作品展覧会へ妻と一緒に見に行つたが、素晴らしい作品を出展していて、その素養に驚いた。つい最近までは社交ダンスまで踊っていた若さである。色々と相談ごとも受けたりしてきたが、藤代氏亡き後の生活にも自信と余裕を持つに至ったことは幸い

である。

千鶴子姉から私宛に、誠吾兄としたためて、たびたび贈り物がある。先日も北海道から取り寄せた「かぶら漬」を頂き、加えて湿布薬を沢山頂いた。詩人や文学愛好家に良くあるように、彼女もまた旅行好きである。「かぶら漬」は旅行先の北海道から取り寄せたもので、旅先からの名産を頂くことが多い。湿布薬は以前、私が庭畠の仕事で無理をして、少しばかり腰を痛めたときの貼り薬だつたが、外科医にもらつた以外に、ご自分でも余分に手に入れたものを持ってくださつていて。この贈り物はいまだに続いている。時折、重宝に使わせてもらつていて、時折、重宝に使わせてもらつている。

と云うのは、私は余り風邪をひかない。少しその氣があつても症状に出てこない。その場合でも、筋肉痛、特に背中が部分的に痛くなつたりする程度で、それを気遣つてくださるのである。女性の親切心は、格別な思いがする。

昭経俳壇の句友として、これからも宜しく。

ニユーヨークの旅（五）

アメリカの巨大な軍需産業と高度な軍需技術は、近代科学の驚異的な進歩とその応用によつて世界最高の水準を持つて世界地図を塗り変えているのが実体である。その軍事技術は医学、産業界に多面的に、革新的に応用されてゐる。特に医学の分野では顯著であり、その貢献度は計り知れない。アメリカの医術がすこぶる高水準で各國とも、その導入に躍起となつてゐる。ジョンズホップキンズ大学は世界最高水準を行く医学部を持ち、多くの学徒がこれに参加して研究を重ねてゐる。医学の世界には、これから克服していかなければならない分野が沢山あり、人類の健康と長寿を約束する未知の世界が限りなくひろがつてゐる。

医学の進歩によつて人間の寿命が肉体的にどんどん延びてきて、一方頭脳的寿命はそれに比例して延びていかないところに深刻な問題

くようなきわどさもあつて、考えたりしていると脳みそを切り刻まれるような気持ちになつてきて戦慄すら覚えるのである。

新年を迎へ、時を刻み節目を作つていくところに人間の生命に対しても物理的制約があつて、我々にとつては時間的、生理的に、いつかは老いと死という深刻な制約があることを突きつけられて慌てだすわけである。いろいろと差はあつても、生について必ず限界があるといふこと、そのことを受容して、むしろそこに人間としての素直な性が浮き彫りになつて、喜怒哀樂の生活の綾が生まれてくるのである。面白さが出てきて詩が生まれ、絵がかける。そしてそこにこそ人間の存在意識が高められて、尊厳さが生まれてくるのだろう。人を愛する気持ちも備わつてくる。優雅に構えているときもあれば、慌てて仕事をする氣にもなるのだろう。

ニューヨークに居る今は着いたばかりで、車での見物ゆえゆつくりと優雅に構えて、詳しく

が起きている。これもひょっとすると将来解決される分野かもしれない。そうなつたら、一体人間の存在とはどうなるんだろう。

最近は、高齢化社会それ自体が、単に年金問題だけでなく人間そのものの尊嚴にかかる問題として考え始められてゐる。人間に生死があつて初めて尊嚴の意識が高まつてくるのであり、秩序が保たれてゐるのである。生死がなくなつたら、益々のさばつて何をしでかすか分からぬのが人間という生きものである。精緻な医学の進歩は、人間の病気の治療はもとより、病苦と死から救済して限りなく現実味を帯びてきて、逆に恐ろしいことが起きつてあるよう気がする。研究されつゝある皮膚万能活性化があるが、疾患部や摘出された器機や臓器の活性を試みて、これがエンドレスに継続されて行つたときに一体人間の寿命というのはどうなるのだろうか、先が判らなくなつてしまつた。人間の手が、神の聖域にまで踏み込んでい

感興に浸る余裕も無いが、今までの体験で、外国にくるとすれば違う人々は一様に親しみをこめて笑顔で行き過ぎる人が多い。観光客という意味合いもあつて、外国人を迎える地元の人の偽らざる気持ちである。平和な時の証である。お互いが神の子だという実感がしてくる。

神の子が行き交うここニユーヨークで、我が目のレンズに移る映像は強烈である。ピノキオが出てきそうな黄色い建物が続く不思議な通りである。イースト・リバーの鮮やかな虹の下をくぐつてきたあと、緑の街路樹が整然と続いている清潔な場所を通つて來るが、明子の住んでいるところは、あとふた通りぐらい先の三十六階建ての高い建物の二十四階にあると聞いている。つまり八番街の五〇ストリートである。してみると随分と街の中心部にあつてスマートだし、会社にも近く徒步七、八分くらいの通りを歩いていくので楽しいだろうと思

つた。ショップにしろビジネスオフィスにしろ、高級なイメージが売り物の界限だから、自ずと人品もハイクラスで洗練された人たちの往来である。明子の会社への道のりは便利だし、これまで安全なことが確認された。仕事がテレビを通じ、刻々変わる経済を中心としたニューヨークからの報道であり、世界の政治、経済の速報であるから、神経が研ぎ澄まされて気の休まるときが無いだろう。

無論、職場には優秀なスタッフが三十人近くいて報道を正確迅速にサポートしてくださいっているから、安心して職務に専念できるわけであるが、画面に出てくるのは彼女だけなので、その分責任重大であり、重圧も感じて居よう。それを打ち返す体力と精神力も必要である。能率と安全を考えるなら、時間的にも距離的にも、職場と住まいとは、より接近しているにこしたことは無い。こうした状況を知るに及んで私は安心した。この日は、広い八番街の通りに

俊敏な動作とスピードに驚いたし、ボールをゲットして相手のゴールにアタック・シュートをしたときは、身体が高く宙に浮いて伸びきつていたのには驚いた。あの一点で学習院大は優勝にこぎつけた一瞬の光景を、いまだに鮮明に覚えている。そのこの学習院大のチームの実力戸成績は長足の進歩である。慶應に次いで、学習院は強力なチームにのし上がってきた。

米国から来たラクロスは、男女を問わず、学生の間で人気のあるスポーツで現在、全国で作られて連盟に登録されて活躍している大学のチームは、三百五十校に達しているから大したものである。裕介の時代から始まって、まさしくゼロからのスタートであった。そうした関係で、多くの学生諸君が気安い我が家に来たりました。若い少年諸君たちと付き合っていると、色々と教えられることが多い。気持ちも身体も若やいでくるから不思議である。学生諸君や、若い青年諸君と親しく交流して、未だに覚えて

は南北にかけて、午後の日差しがさんさんと降り注がれていた。高層のビルが立ち並ぶ割には重圧感はなく、きわめて明るい街である。

妻がニューヨークに来たのは今回が二度目である。息子がジョンズ・ホプキンス大学留学中の夏休みであった。息子は留学中の勉學に合わせ、日本にラクロスのスポーツを最初に持ち込んできて、帰国後は当時の日本の学生の間にこれを普及させて行つた。ゼロからのスタートである。このスポーツは瞬く間に学生の間に広がつて行つた。全日本学生ラクロス連盟も出来て、息子はその初代委員長に就いて発展に尽力した。娘の明子も学生時代は、バレーボルトに夢中だったが、途中から兄についてラクロスに転向、学習院大にチームを作り部長になつたりして活躍、体育会にも正式に部として認められ、その後明子は全日本代表にもなつてアメリカに渡つて対抗試合に出で活躍してきている。試合を見に行つたことがあるが、明子の

もうつていて楽しい限りだが、日頃において若く見えるのは、そうしたおかげかもしれない。明子の友だちはみんな可愛いし、この若い小生を捕まえて、おじさんといって慕つてくるし、遠くからでも思い出してくれてるので、嬉しかがりである。会えば必ず思い出す懐かしい若者たちである。標語のとおり、「ラクロス・マイクス・フレンドシップ」である。私は彼ら仲間入りをさせてもらつて、専ら心のラクロスを楽しんでいる。

ラクロスのスポーツは、物凄いエネルギーを消耗する激しい運動である。サッカーより運動量はあるだろう。試合は、前半、後半ともキックオフ開始後、各々四十分である。その間、硬球のボールを追つて広いグラウンドを駆けどうしである。ラクロスの歴史はアメリカン・インディアンにさかのぼる二百年の歴史がある。西部開拓時代まえのインディアンが、これを格闘技の一つのスポーツとして部族間の競技に

盛んに用いたのである。歴代の優勝チームが、強豪のジョンズ・ホプキンス大学である。今日まで、国際友好親善試合が何度も行われてお互いに、交流を図つてきているが、日本チームも互角に戦うほどに実力を挙げてきている。

交流試合の熱戦は、毎回迫力があつて実に刺激的である。裕介は連盟の立場上、毎年の国際試合に外国の選手を招聘するに専ら尽力している。あちらにいけばメリーランド州の名譽州民になつてるので広く活躍でくるのだろう。そんなこともあつたりして慶應大では、日米学生の交流を盛んにやらしめたという功績で初代塾長賞を当時の石川塾長から頂いている。授賞式にはご両親でどうぞという丁重なご招待状を頂いたが、親父まで出る必要はあるまいと家内が出かけていつたが、授賞式のあとに学校側からのお祝いの豪華な接待を受けて楽しかったわよという報告を受けた。ご馳走も出たらしが、それだけは機会を逃して残念だなと思つ

なあと、悔やんだことも覚えている。彼らはいつもビールを水代わりに飲んでいるから、あけたビールが五百本にも達した。ビールのケースをピストン輸送した近所の酒屋がビックリしていた。あのときの模様を昭和経済の巻頭言に書いたところ、その頃お元気だった鈴木金属の村山祐太郎社長（当会理事）からお電話を頂き、「よいことをしましたね」とお褒めの言葉を頂いて未だに有難く思つて忘れないでいる。

妻は当時のラクロスプレイヤーを支える日本本のラクロス友の会を代表して、本場のニューヨークにやつてきて盛んに交流を図つたようである。今から十八年前である。妻は約三週間滞在したが、そのときのニューヨークは犯罪都市と目に移つた。危険いっぱいの街だった。妻はボルチモアにあるジョンズ・ホプキンス大学のドミトリリーに宿泊していた。その滞在中にニューヨークを訪ねた。地下鉄は真っ暗だつたし、街は汚くて、浮浪者がたむろしていた。スリ、

ある年のこと友好親善試合にアメリカから、ホプキンス大学の強豪チームが大挙して日本にやつてきた。そのときは選手一同が試合後に裕介の家に行こうということになつて、江戸川区の試合場からプレイヤー初め関係者ら全員がやつてきたのは驚いた。ビールだけ用意しておいてくれればいいと云う連絡だつたが、そもそも行かず、我々の知人友人の応援も頼んで、どうにか対応して日米親睦交流会を持つたが、何と百名余のプレイヤーがやつてきて大変な騒ぎだつた。選手たちはいずれも巨漢ばかりである。家中、庭中を解放してこれに当つたが立錐の余地もなく、皆立ちどうしあつた。私は、もっと大きい家と庭を持つておればよかつた

たのである。学生の自主独立の精神を培い、向学心を燃やして勉学とする、それを支える大学も、さすがに慶應だなと感心した。これなら学生たちも勉学活動に熱が入るだろう。福澤諭吉の精神が脈々として継承されている。

私は東京でも八重洲にオフィスを構えて居るので、いつも東京は銀座のど真ん中を歩いてくる。世界で一番治安のいい都市であることは間違いない。ニューヨーク五番街と比較してもなんら遜色がないと思っている。そうした街で往き来しているので、さすがに美人とすれ違う

…… (六)

私は東京でも八重洲にオフィスを構えて居るので、いつも東京は銀座のど真ん中を歩いてくる。世界で一番治安のいい都市であることは間違いない。ニューヨーク五番街と比較してもなんら遜色がないと思っている。そうした街で往き来しているので、さすがに美人とすれ違う

頻度は他の人に比べて格段の差であろう。色々な国々から見える観光客を見れば、なօさらの感じがする。空にかかる虹もそうだし、夜に眺める満天の星々もそうだ。美術館で見る絵画も、そうだし、花壇で眺める花もそうであるように、美しいものに接することは人間にとつて感性の陶冶になつて恵まれた素晴らしい体験となる。そして男性から見る女性の美しさは、その最たるものである。

日本の女性も背が高くなつて体形もスマートでとても綺麗になつてきていて、外人に決して引けをとらない。別段研究しているわけではないが、むしろ欧米人より体形がよくなつてきて、そこへ日本的な品のよさが加わつて、今や歐米人を完全に凌駕している感じである。スターの浅田真央ちゃんのような女性が一般的になつてきた。女性プログルファー然り、しなやかな身体が美しさに繋がつて素晴らしいことである。先日も六本木の地下鉄駅に見張ること

職場にいるオフィス・レディーが、最近の男と女を比較して痛烈な批評をしていた。「女々しい男性、逞しい女性」という区別が一般的に認知されてきているというのである。してみると元防衛事務次官の守屋君みたいな、前の農林大臣をやって更迭された赤城のお兄ちゃんなど唐変木の最たるもので箸にも棒にもかからぬ、つまらん男だというのである。社会の上層部でその始末だから、他は推して知るべしである。これについて書き始めたらきりがないので止めたいたいと思うのだが、かように偉い人の間にも受けの悪いのが居るから余り悲觀することもないし、自分自身を卑下したりする必要はない。大方の人は自信を持つて世を渡つているべきだと思う。只、人との関わりで群れを成していると怖いのは人の妬み、嫉み、やつかみである。それが昂じるとうらみに変わつて、あらぬ被害を受けたりする。人間の性ゆえに、古今東西、何時の時代でも変わっていない。表面

ような若い外人女性を見た。ニューヨーカーの若き女性グループか、はてさてファッショントモデルの一団だろうか。気色ばつて近くで良く見たら、驚いたことにみんな日本語をしゃべっている日本人だった。髪の毛もそれぞれ金髪とか、ブラウンとかで染めているし、化粧も洗練されて実に綺麗であり嫌味がないのである。体形だけはアジャストするわけにはいかないから、地そのものだろう。爽やかな春の風に触れるような気がした。

それに比べて一向に冴えないし、進歩向上しないのが男性諸君だ。服装は野暮だし一向にリフайнされていないし、体形は運動不足で肥満体が多いし、押しなべて背筋が伸びきっていない。バブル崩壊の苦労の後遺症が残つているのだろうか。最近はそれすら回復の兆しなく、むしろ退化しているのではないかと思うくらいである。指摘するまでもなく、そもそも氣力、体力に負けている証拠である。ある男女混合の

では媚びへつらいながら、裏では陰湿、姑息な手を使い人をおとしめる人も沢山いる。古くは日本書記もそうだし、紫式部の源氏物語に出てくる人物の間の確執と葛藤、夏目漱石の坊ちゃんに出てくる人物にしても然り、見にくいくらいだが、あらゆる世界で共通していることである。致し方ない世の宿命と見るならば、処世術としては、できるだけそうゆう人からは避けるに越したことはない。君主危うきに近寄らず、とは昔からの教訓である。所詮、いい人とお付き合いすることである。さりとて純粹培養された人間として生きることなんか考えられないし、一方、清濁併せ呑むということもあるし、虎穴に入らずんば虎子を得ず、ということもあるから、程ほどにというべきか。つまりは常識をもつて、一步進めて良識を内に秘めてということであれば、品のよさも備わつてということになる。さように世の中を渡つていくには色々な事象に遭遇するから、孔子の教えではないが、自

らは、いついかなる時でも毅然として公明正大に心がけ、知者、仁者、勇者なるものとして世に臨むべきである。即ち知者は、惑わず。仁者は憂えず。勇者は、懼れずである。切磋琢磨、修行の結果が、人格である。それが顔に出、身だしなみに出て、風貌に現れてくる。父はよくそんなことも言つていた。天下を取つたばかりの安倍さんだつて政治家としての力量才覚と、統率力、指導力はこれからもので未知数だが、風采については歴代の首相の中でも極上ものだろう。後は知、仁、勇が決定するだろう。わたしの畏敬する福江牧師夫妻が居られるが、この方は別格である。牧師の外見も背が高くスリムであり、着こなしもきらつとしていて見るからに爽やかで年齢を感じさせない若々しさ、清潔さがある。聖職者として恥じない言動の方である。教会にもキリストの僕として伝道に努める牧師と、そうでない適當な人もいるから、表情と風采に差が出てくるのは致し方

自ずから身についたものである。勉学と信仰を積み重ねて弛^{なほ}まずに、ひたすら伝道の道に励む人の姿である。外国から帰国後に郷里の高松で伝道に励み自らの力で教会を建てた。そして上京、さらに道を求め、おごらず、昂ぶらず、へりくだり、さながら荒野を歩く求道の師パウロ先生を追う姿である。にもかかわらず、イエスを貶めて十字架にかけた悪童がいたように、生々しい人の世の嫉みにあつて先生も色々な受難にさらされてきた。あるときは静かなイエスにも似て、あるときは荒野を行く。パウロ先生に似て、十字架を負うそのうしろ姿は清冽で力強いよいものがあつて求道者や、信者の心を搖るがしている。昔礼拝で幾度となく聞いた説教は尚心に残るものである。恩師、酒枝義旗先生の姿を髣髴させるものがある。人生を考えいく上で、真剣に見習いたいところである。イスラムと共に常に教会のことを考え、信徒のことを考えて、これを広く全ての人に広めようとして

ない。やたらと威厳ぶつても、裏に廻れば悪知恵を働かせ、姑息で怠惰をむさぼり、挙句に袈裟の下からボロを見せる愚かものもいる。教会も一面では組織もあるし経営だから、そうした感覚もなければ勤まらないが、なかなか難しい点もある。聖職者が事務方と組んで役員とか理事だとかに首を突っ込んで権力志向を強めてくるとそのゆがみ方は激しいものとなつてくる。策を労して、陰湿になる感じである。我侭な特殊な世界だけに非常識であり、突拍子もない言動をはいて憚らない人もいる。芸術家や一部の学者や、教育者の類にも傾向としてよく散見されるところでもある。

つまり牧師についてみると聖職者としては中途半端な格好になつてしまふから魅力に欠けてくる。聖書にもとづかず言動は二転三転してつかみえず、以つて信頼に足らんものである。その点、福江牧師は温厚清冽な人柄で、このスマートさは内なる心から清水の如く湧きでて

いる。ときの勢力に迎合せず、御都合主義に走らず、ましてや嘘をつかず、眞実と誠を以つて主に仕えるが故に、愛と慈しみに溢れて、いつもイエスが付き添つて支えてくださつている姿である。

喧騒のニューヨークには高層ビルの谷間にあつて氣ずかないところに、自ずと静かに清冽な場所があつて教会が建つてゐることが多い。政治のどろどろとした世界はともかく、市民生活に日常的に奉仕精神が溢れてゐるのも、キリスト教的精神に根ざした生活の所以とも思う。日曜日とあつて、道を求めて祈る洗礼とした女性の姿を多く見かける。キリスト教に限らず、世界にはイスラム教、ヒンズー教、仏教、儒教などその他を含めて沢山あるだろう。ちなみに世界で、キリスト教信者は約二十億人、イスラム教信者は十三億人、ヒンズー教が九億人、仏教が何と三億六千万人、儒教に至つては、約二億人、なんだか分からぬ雑多なものが後の八

億人ということになる。しかし根ざすところは人間が有限であり弱きものであり、絶対的な存在に頼らうとする敬虔な思いから発していることは確かである。根ざすところが一緒であるならば、対立抗争をやめて、帮助、博愛の精神で臨み、愛を示しあうものであつて欲しいものである。

信仰心を持った人は何時いかなるときにも精神的に崩れることはない。精神的に崩れないということは、肉体的にも健在であることと一緒にである。最近は女性蔑視のイスラム社会でさえ、自己に覺醒した女性台頭の波は大きく社会にうねつてきている。今、社会の多様な変化を経て言えることは、日本でも女性の躍進は確実であり、最近は益々構造改革の大変化の結果の一つにあげられる。バブルと称して軽薄に崩れ去るものではない。将来を展望して、今までもそうだし、これからも日本女性の真価を發揮して余りあるものがある。芸能的でない、ミーち

やん、ハーチやんでない、浮薄でない女性の進出を大いに期待している。現実の職場で活躍する女性は益々増大するし、これは世界的な傾向である。女性進出の大きな波のうねりは世界的なものであり、平和への貢献度は益々高まるであろう。潑刺としたニューヨークの女性の姿からも感じ取れることであった。

恩師の早稲田大学名誉教授の酒枝義旗先生は、経済学者で且つ神学者であり、敬虔なクリスチヤンである。宗教学者としては内村鑑三と並び称されていた。先生はマルクス経済学でもない、ケインズ経済学でもない、先生の信奉するゴットル博士が提起した学説のゴットル経済学を、先生が独自の学問的体系に組み立てたものである。著書そのものであるが、「経済の構成体論的把握」である。当時は経済学の焦点が一般的に、生産と消費、利潤追求と経済発展の理論構成の上から、時勢で既にマルクスは落ち目にあつたが、一般理論のケインズをはじめ

サミュエルソン、シェンペラーなどの学者が吐いた学説が大いに受けていたし、そうした時代的背景があった。そうしたなかでゴットル経済学は異質的論理と見なされがちであったが、早稲田では、それが経済原論として必修科目になつていていたところに学園の面白があつたのであり、酒枝先生の学問的、人格的因素が大きく影響していたことでもあつた。資本主義、自由主義の発達したアメリカのメソカであるニューヨークからは、一九二九年の大恐慌以降、優れた経済学者が次々と登場して経済の混乱を収束せしめ、安定した発展軌道に経済社会を導こうと努力を図つた。

酒枝・ゴットル経済学説は、経済行為の基本的命題に肉薄するもので現代においてこそ、尚その信憑性を發揮して真に迫つてくる必要充分条件であると、私自身は思つてている。つまり今のような経済社会にこそ、学説の存在意義を認識して、その真価を發揮してくるように思う。

先生の大学院でもドイツ語の勉学に師事したが、さすがに早稲田大学が誇る学者であり教育者であり、キリスト者である。その後、キリスト者として我が昭和経済に信仰告白とも言うべき麗筆を幾たびか連載されたが、ありがたき教授は今も尚我が心のうちに燃え続けている。教授は、内村鑑三と並び称せられたおひとりである。その後の西原春夫氏は総長になつたが、当時法学部の助手を勤めていて酒枝先生のもとで五人ほどの仲間と一緒にドイツ語と経済学を勉強していくことを覚えている。若い時代のことと、そんなことが縁で西原氏は大先輩だが、その後もたまたま親交があつて当時をしのぶ上で懐かしい一人である。

酒枝先生の共通教室での講義はもとよりだが、説教は実話を交え、ご自分の体験をあからさまに語るものだったからすさまじく真に迫るものがあつた。講義はよどみなく堂々たるもので、教壇は早稲田が誇る名講義として且つ誠

実さを以つて天下にその名を鳴らしたものである。未亡人の現子姉とは今以つて暖かい眼差しを賜つてゐる。この共通教室は六百名の学生が入つた。最後列に座つたものは望遠鏡を使つていつていたくらいである。以下述べる必修科目の教授は、概ねこの教室を使つていた。その

当時を思うと、立派な先生方がいた。政経学部に限つてのことだが、農業経済学の久保田明光、政治学の吉村正、憲法学の大西邦敏、財政学の時子山常三郎、貨幣論の中村佐一らの各教授は学者らしかつた。小生は当時の学者、教授とは何らかの形で個人的に接触してゐた。比較的面白いなほうだったのである。先生を尊敬する不肖生徒の姿勢が、そうさせていたのかも知れない。惜しむらくは政治学者吉村正である。「現代政治の解説」は、名著で講義もよかつたが、後、入試試験で不祥事の嫌疑をかけられ母校をはなれた。教え子に多くの政治家、国会議員を送りだし、学内でも豪胆で人気者だったから敵

も多かつたに違ひない。松柏は高きに風雪によく耐えを旨とすである。学園の雄、私学の慶應、官立の東大、京大と同様、早稲田にも立派な教授がいて、独立独歩の氣風で親交を厚くさせて頂いたことはありがたく、その思い出は、未だに懐かしき限りである。

独立の精神といえば、直ちにアメリカ独立宣言を思い出す。過去、ヨーロッパの歴史を紐解いても專制と圧政の政治から、自由と平等の権利を自らの手に取り戻そうとする市民の、時の権力に対する熱い戦いの連続である気がする。幾多の尊い命が無残に奪われていつた酷い歴史もある。アメリカの独立運動とその熾烈な戦いも、その例外ではない。アメリカの象徴であるニューヨーク・マンハッタンのリバティ島に立つ「自由の女神」の美しい写真を、明子からもらつてゐるが、今回、その壯麗な姿を間近かに見ることも出来ると大いに期待してきている。 六月十一日記。 続く

表紙絵のことば

経堂三丁目

関根常雄

表紙絵の経堂三丁目は、小田急線沿線の世田谷区に有ります。駅周辺は、今、復々線工事のため一部は完成していますが、バスター・ミナル等の工事のため混然としております。

世田谷には、昔から著名な文人が多く住んでおります。小説に描かれた幾多の有名な名作の舞台となつた場所でもあり、そうしたドラマの作家や演出家が住んでいて、魅力ある街になつております。特に経堂に住み、経堂を愛した植草甚一こと、J・J植草さんは、七〇年代の若者達に圧倒的な影響を持つた人で、映画やジャズ、そしてミステリー、はたまた詳論家として大変な人気を博した方です。

二〇〇七年九月から十一月二十五日まで、世田谷文学館主催による「植草甚一展」が開催されました。植草さんは二十年前に逝去されたのですが、今でも熟年層から、若い方々まで熱い支持者が多く、二〇〇七年にはNHKハイビジョン局の放送で「むかし男ありけり」の取材がありました。J・J植草さんは三十五年前からの私の友人であり、洋服制作上のお客様でしたので、NHKからの取材が私にありました。

J・J植草さんは、繊細な方でした。服装にも品格を重んじられた人格者です。世田谷文学館によつて催された、植草甚一「マイ・フェバリット・ジンクス」展にも、私が作った洋服が展出されました。洋服を着たポスターや、アサヒグラフのモデルになつた表紙や、ベスト・ドレッサー等に選ばれた時の写真など、六点ほど資料として提供させて頂きました。展覧された会場には五千四百人の観客があつたそうで、相も変わぬ人気に感動しました。

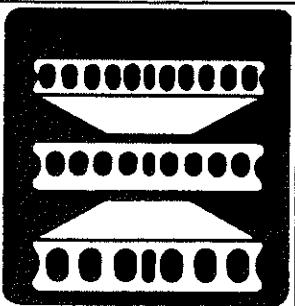
J・J植草さんは雑学と散歩が好きでした。

町内地図をひろげて、自分の家から東西南北にかけて、八色に塗り分けていつもプラついては

お洒落な雑貨店や、古本店などで買い物をして、大好きなコーヒーを飲んで帰るのが一番の楽しみだったようです。

経堂の街は、どの通りも斜めに走っていて、土蔵の鍵のようになつていて見通しの悪い道が多いのです。私の所から、一分も歩くと海音

寺潮五郎の屋敷があり、一歩進んで左に曲がると表紙絵の様な裏通りになります。三分ほどで「塩原湯」という銭湯があります。孫たちが来ると一緒に行くのが楽しみなのです。



建築・土木用床材・壁板に完全活用
㈱スパンクリートコーポレーション
〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-25
TEL 5689-6311代

会長 村山好弘

中央建設はこんな会社です

あけましておめでとうございます

本年も安心な建物をお届けする技術とサービスに磨きをかけてお客様の信頼にお応えします。

取締役社長

清水侃治

一級建築士

ホームページ

<http://www.chuou-kensektsu.co.jp>

中央建設株式会社

〒102-0073 東京都千代田区九段北2-3-2

☎(03)3261-4201代)

漢詩を仲間と作ってみませんか

伊森東風

〒164-0013

東京都中野区弥生町5-8-5

TEL (03) 3384-0287

最初はとっつきにくいと思います。
漢文に於ける文法・文脈の説明や漢詩の例をあげて指導いたします。

原則として第二日曜日午後一時から二時間の授業を行なっております。

税理士法人
日本橋税經センター

税理士
板橋則雄

〒103-0013 中央区日本橋人形町二ノ二六ノ八
サンマルコビル十階
TEL (03) 3366-217701

- (一) 昭経俳壇への投句を募集しております。
奮って「」参加下さい。
- (二) 論文、エッセイを募集しております。事務局まで
お問い合わせ下さい。
- (三) 企業支援活動を行っています。事務局まで
お問い合わせ下さい。
- (四) 会員の募集活動を進めております。「」支援
をお願い申します。

平成十九年 平成二十一年 平成二十一年 平成二十一年	十一月 一月 一月 十一月	二十六日 一日 一日 二十六日	印刷 発行 昭和経済 昭和経済	印刷 発行 昭和経済会 昭和経済会	日本印刷株式会社 日本印刷株式会社 佐々木誠吾 佐々木誠吾
事務局 〒103-0013 東京都中央区八重洲二丁目十一ノ一 TEL (6811) 6000番 FAX (03) 3366-2177 e-mail:info@showa-ecor.jp http://www.showa-ecor.jp/					

平和と自由を標榜する会の発展は
世界につながる

弁護士 富田純司

〒100-0006 千代田区有楽町一の十二の一
新有楽町ビル十階十三号
TEL ○三一三二四一六〇八一

大手上場証券 株式会社

代表取締役
社長 城山文作

東京都中央区日本橋本町三一三一六
ワカ末ビル九階
TEL 03(33272)1051

謹賀新年

仕事始めは珈琲で仕事後は麦酒で乾杯

プロント銀座松屋通り店

代表取締役社長 鈴木孝夫

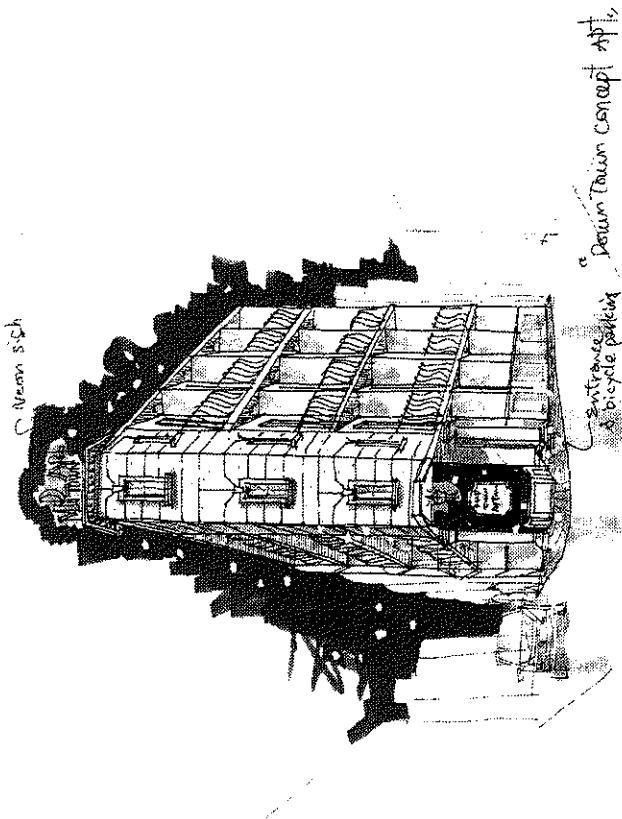
中央区銀座三一七一十三
電話 三五六三一一〇一〇一
株式会社 谷口コーポレーション
谷 口 八 棱
中央区銀座三一七一二
電話 三五六四一九四一八

SECHレベーター株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東三丁目一八一三
SECHビル

TEL (03) 3833-1171 (大代表)
FAX (03) 3833-1404

TAKI
滝デザイン研究所
一般建築士事務所登録 神奈川県知事登録 第12177号
建設業者登録 神奈川県知事許可(般-13) 第65626号
TEL 045-663-0061 FAX 045-663-0761



"Sustainable building
A bicycle parking
Area"

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福
室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田
莊 祐 新 栄 宗

英男真三郎俊英利夫弘達芳謙一郎清秀三郎俊彦大起夫凱美正達郎

N通通通通大国東日外作中N慶作通科弁組日政大參科經本經日ソ富大

蔵本學學田本士大二臣
織本學學田本士大二臣
工經治議濟清本二臣
藏技技銀銀(一內
濟學濟學濟
業解省術護研新評院術評評
業解大序說學
研究大序研行行
顧所社論議論社論理
長委教長所顧
長頭大臣
長官長官官事裁問家官員授家間官士長間家臣長官家長家事長取

講演会の主な講師（講演時役職）（敬称略）

LOHASMISSION
ロハスミッション株式会社

代表取締役社長 隅田 直子

email: sumida@lohasmission.com

本社 〒130-0015 東京都墨田区横網1-2-28 両国ステーション西ビル
電話 03-5608-0461 FAX 03-5608-4497
事業所 〒104-0061 東京都中央区銀座3-5-6 http://www.
電話 03-5250-0910 lohasmission.com

謹賀新春

うるわしき富士の高嶺に白雪のかがふり春
のみそらかがやく
澄みわたる初のみそらに白せきの高きにひ
とりいづく飛びゆく

二〇〇八年元月

理事長 佐々木誠吾

理事　野沢 亨、野田 尚、井浦康之、
谷口八穂、村山好弘、西村公統、
中村 節、鈴木孝夫、清水侃治、
田村次朗、佐々木裕介、小金丸義雄
高木新二郎、佐々木功、鈴木喜佐人

監事 大久保和孝

通省財務省担当官一義當官、金山龜西中早島副山久岩斎目原和小精、子口井澤村坂田島田保國藤良田田浜精、霍松鈴有大水森堀水藤井大見永木馬来谷江城井浦山佐、一義靜宏敦茂晴隆伸哲一浩和維芳信淑朗武研忠武康康昊、電音二香繁夫三雄彦二亘人郎一明俊人ヲ浩雄夫人郎治亘男彥雄之人